

2012
April

4 月

高校版
Volume

1

2 私を育てたあの時代、あの出会い

学校が変わる感動を原動力に教師として学び続ける
静岡県立湖西高校◎大野達雄

4 特集

高校教育の役割 学び続ける姿勢を育む

6 社会人に聞く 私たちが学び続ける理由

- ・ 周囲と協力して仕事をしながら憧れの先輩の背中を追い続けたい
株式会社資生堂 国内化粧品事業 マス・マステージブランドユニット 山崎 玲
- ・ 好きな仕事だからこそ甘えず、高みを目指したい
オーガニック リラクゼーション サロン「Plaisir-プレジール」代表 梅山久美子
- ・ 教え子全員が数学を好きになるまで授業を改善し続ける
長崎県立口加高校教諭 菰田 清
- ・ ○か×か明確でないからこそ「もう一丁!」と挑み続けたい
株式会社ベネッセコーポレーション 国内教育事業本部 副本部長 山河健二
- ・ 上下関係を超えて皆と学び合い料理を通してお客様を喜ばせる
日本料理 作一 西店 店長 野原廉志

14 共に学び続ける 学びの感動を味わわせるためにまず教師自身が学び続ける
仲間たちへ
愛媛県立松山東高校教頭◎大内洋一郎

16 指導変革の軌跡

16 北海道札幌南高校

進路意識向上◎3年間を見通した進路体系を生徒の変化に合わせて再構築

20 東京都・私立 明治大学付属中野八王子中学・高校

大学付属校の進路指導◎生徒の甘えを取り除く徹底した指導で意識と学力の向上を図る

24 宮城県黒川高校

学校改革◎学び直しの徹底とデータによる効果検証で生徒・教師の意欲が向上

28 30代教師の「転んでも起きる!」

「いかに生徒をやる気にさせるか」思考させ、学ぶ意欲を引き出す
岐阜県立岐阜北高校◎大西 護

30 生きたデータの徹底活用

生徒の「よりどころ」を生かし2年生を学校の中核へと育てる指導

34 未来をつくる大学の研究室

細胞シート工学を基盤とする再生医療により生命の謎に迫る
東京女子医科大 先端生命医科学研究所 大和雅之研究室

38 新課程のファースト・ステップ

新課程先行実施での中学校の変化と課題

42 大学選択 新たな視点

専門性と社会を関連させた体験型学習を行う学部〈東日本編〉

48 VIEW'S SQUARE

本文中のプロフィールは
すべて取材時のものです。
本文中、敬称略。
本誌記載の記事、写真の無断複写、
複製および転載を禁じます。

今、振り返る教師としての原点

私を育てた
あの時代、あの出会い

学校が変わる感動を原動力に 教師として学び続ける

静岡県立湖西高校 大野 達雄

仕事の全体像が見え、自分は一人前だと感じる時は誰にでもいつかは訪れる。だが、そこで成長をやめるのか、向上の途を進むのかで、その後の運命は分かれる。より大きな感動を求める日々を選んだ大野達雄先生が、きっかけとなった出会いを語る。

まだ一人前ではない



教科指導でも
生徒指導でも、
自分は一人前の
教師だ——30歳

を目前にした私は、そう自負していませんでした。そんな私の考えが間違っていることを教えてくれたのが、私よりも1年後に静岡県高校に赴任した小関直樹先生です。

実は小関先生は、高校時代の恩師の1人です。高校生の頃は、大学生活の思い出などを話してくれる、楽しい先生という印象でした。しかし、自分も教師となって再び会った先生には、もっと別の魅力がありました。

廊下から先生の世界史の授業

をのぞいた時の衝撃は、今も鮮明に覚えています。生徒全員が背筋を伸ばして、授業に集中しているのです。頬杖などともないことです。こんなに緊張感の漂う授業があるのかと思いました。

その上、小関先生の元には多くの生徒が進路相談に訪れていました。もし自分があれほどの緊張感の中で授業をしたとしたら、生徒は自分を慕ってくれるだろうかと考えました。更に小関先生の教えるクラスは、全国模試でも信じられないくらい良い結果を出していました。担当教科が違うことなど言い訳にはなりません。私は、小関先生から学びたいと思いました。

先生の授業を参考に見直した

ことの1つが板書です。ノートがそのまま参考書になるような見事な板書をまねしようと思っただけです。授業の準備にはそれまで以上に時間が掛かりました。が、板書の内容を精選したこと、生徒が書き写す時間が減り、授業のテンポが格段に良くなりました。自分が一人前だなんてとんでもない。教師としてまだまだ勉強することはたくさんあるのだと実感しました。

皆で学校を変えていった

当時、静岡県立湖西高校には30代前半の教師が私を含めて4、5人いました。若手同士仲が良く、喫煙室などで和気あいあいと話をしていました。小関先生はそこに足を運ぶようになったので

すが、小関先生が加わったことで、その場の雰囲気次第に変わっていききました。

先生は私たちに「生徒は大きな力を秘めている。だから教師もそれに応えよう」と熱く語り掛けました。私たちは次第に先生と同じ気持ちになり、思いを語り合うようになりました。そして、学習合宿参加者の成績の伸び率、部活動加入状況と成績の相関などユニークな視点でデータの分析を行い、資料として次々に発信していきました。

小関先生がアイデアを出し、私たちはそれを形にしていきました。面倒だとは一度も思いませんでした。小関先生は受け持った生徒を見違えるほど伸ばしている。それならば、自分たち

先輩教師の言葉

生徒の成長に感動し、
次の感動を求め、
また努力する

静岡県立藤枝東高校 教頭
小関直樹



大野先生たちとは「この学校をもっと良くしよう」と本音で語り合いました。模試結果を見ながら、「入学時の成績のままなら180人は国公立大に合格するはずなのに、実際には半分以下。これで生徒を育てているといえるのか」「方法さえ変えれば学校はもっと良くなる」と何度もしかけました。

皆、熱意も実力もありましたから、その気になるとものすごく力を発揮します。いろいろなアイデアを出し合い、実践しました。大野先生はよく「この取り組みがうまくいくか、まさに勝負ですね!」と言っていました。「やりなさい」と一方的に言われたことだったら、あんな雰囲気

*プロフィールは取材時(2012年3月)のものです

左 おぜき・なおき 地歴・公民科。富士高校、富士宮西高校などを経て静岡東高校に11年勤務。その後、教頭として藤枝東高校へ。

撮影◎静岡東高校にて

右 おおの・たつお 数学科。清水東高校(定時制)を経て、静岡東高校に5年勤務。その後、静岡高校の教壇に立ち、現在は湖西高校に勤務。3学年主任。



は先生の言葉を、何より生徒が本来持っている力を信じてみようと思ったのです。そして、着実に伸びていく生徒の姿が、私たちの原動力になっていったのでした。

たばこを吸わない先輩教師がわざわざ喫煙室にやってきて、「こんな観点で成績分析してみては？」とアイデアをくれたこともありました。また、3年生

の担任を務めた時は、センター試験後の出願先の検討を、小関先生に協力してもらいました。資料を広げて徹夜で話し合っているとき、聞きつけた教師が次々にやってきて、「この生徒にはこの大学が合っているのでは？」などとアドバイスしてくれました。分掌や学年を超えて、皆で生徒を伸ばそうとしていることを、私は確かに感じました。

そして、この集まりは進路検定会としてその後も受け継がれていきましたから、まさに学校が変わる1つの瞬間だったといえます。その後、私は異動しましたが、進学実績や部活動の伸びなど学校の躍進を外からも感じていました。

あの頃から10年が過ぎ、当時の小関先生と同じことが自分に出来るだろうかと考えます。そして「今、先生に会ったら怒られるな」と思ってしまう。さまざまな生徒と接する中で、「生徒が悪い」と思ってしまうような時もあります。しかし、すぐに「そんな言い訳を해서는ダメだ」と自分に言い聞かせる。小関先生のように生徒を信じ続けたいし、皆で力を合わせて学校を変える感動をまた味わいたい。そう思っています。

にはならなかったでしょう。もっと良い学校にしようと、全ての教師が当事者意識を持ってかわっていました。皆がお祭りみたいな気分を味わっていたと思います。

10年経った頃には、国立大の合格者数は約2倍になりました。生徒の表情、生活態度、そして学校全体の雰囲気が一変し、生徒はここまで成長するのかと感動しました。素晴らしい経験を生徒にさせてもらったと思います。

その分、静岡東高校を去る時は辛かったです。立場も管理職に変わり、教師としてのあり方を再考しています。あらためて「生徒にとって良い教師とは、どんな存在か」と角度を変えて考えています。

どんな立場でも、学校がもっと良くなっていく感動は味わい続けたいのです。成果はすぐに出るわけではないし、生徒に対してがっかりすることも多々あります。でも、9回やってダメでも、10回目に生徒は良い表情や反応を見せてくれることがあります。その瞬間、教師って良い仕事だなあと心底思います。

生徒とのふれあい、そして彼らが味わせてくれる感動があるから、頑張れるのです。

高校教育の役割

学び続ける

姿勢を育む

生涯にわたり、学び続ける姿勢を育む——それは教育の不易のテーマだ。
では、そうした姿勢を日々の指導の中で育むために、何が必要か。

実社会で活躍する社会人の「学ぶ姿勢」と、現場教師の声を基に考える。

高校生の疑問

「勉強する意味って、何ですか？」

- 大学入試のための勉強は、社会に出てからも役立つのですか？
- どうして興味のないこと、嫌いなことも勉強しなければならないのですか？
- 先生は大人になってからも日々勉強し続けているのですか？

1 高校の学びと、学び続けることの意味

—— 最近の「VIEW21」の言葉から ——

◎「今思うと、(3年生の時に世界史を習った)先生は自分なりの『哲学』を持っていたのだと思います。(中略)私も先生のように自分自身の価値観を持って生きていきたい。それは、研究者として必要なだけでなく、人生の困難を乗り越える上でも、大きな力になるはずです」**2011年10月号「未来をつくる大学の研究室」京都大学大学院 野崎優樹さん**

◎「分からないことをうやむやにせず理解しようとする努力、仲間と協力して何かを成し遂げていく体験、1つ上の目標を掲げて、それに向けて切磋琢磨していく経験。その一つひとつが、大学入学後、あるいは、社会に出ても学び続け

る原動力になるのだと思います」**2011年4月号「特集 高校教育の役割」長崎県立諫早高校教諭 石山雅晴 (現長崎西高校教頭)**

◎「社会に出れば必ず直面する『簡単には答えを出せない問題』や『答えのない問題』に立ち向かう力を育む。それが尾道北高校の教師の使命であると気付いたのです」**2011年9月号「30代教師の転起」広島県立尾道北高校教諭 平山成樹**

◎「将来、英語が必要となった時、もう一度勉強しようという姿勢があれば、学び直しはいくらでも可能です」**2010年12月号表紙 大分県立大分上野丘高校教諭 山本俊幸**

*プロフィールは記事掲載時のものです

2 なぜ学び続けられるのか —— 社会人の思い

[P.6~13]

社会人8年目 周囲と協力して仕事をしながら憧れの先輩の背中を追い続けたい
株式会社資生堂 **山崎 玲**



社会人14年目 好きな仕事だからこそ甘えず、高みを目指したい
オーガニック リラクゼーション サロン「Plaisir」 **梅山久美子**



社会人18年目 教え子全員が数学を好きになるまで授業を改善し続ける
長崎県立口加高校教諭 **菰田 清**



社会人27年目 ○か×か明確でないからこそ「もう一丁!」と挑み続けたい
株式会社ベネッセコーポレーション **山河健二**



社会人34年目 上下関係を超越して皆と学び合い料理を通してお客様を喜ばせる
日本料理 作一 西店 **野原廉志**



3 生徒と共に学び続ける —— 教師の思い

[P.14~15]

学びの感動を味わわせるために
まず教師自身が学び続ける

愛媛県立松山東高校 教頭 **大内洋一郎**



社会人に聞く

私たちが学び続ける理由

人生において、学びは絶えることなく求められる。それ故、教師の元から離れても、人は一人で学び続けなければならぬ。では、自ら学び続けられる、その原動力とは何か。5人の社会人に聞いた。

周囲と協力して仕事をしながら 憧れの先輩の背中を追い続けたい

社会人
8年目



株式会社資生堂
国内化粧品事業

マス・マスターズブランドユニット

山崎 玲

何もうまくいかない中 周囲からひたすら学んだ

資生堂に入社した私は、総合スーパーなどを対象にしたルートセールス担当として佐賀県に赴任しました。横浜市出身の私は方言に戸惑い、土地勘もないため取引先の店舗に到着するのにも苦労する有り様でした。やっとならぬまでたどり着いても、現実はシミュレーション通りに進ん

ではくれません。一言で言えば、「何をしてもうまくいかない日々」でした。でも、そのことを深刻に悩む時間はありませんでした。うまくいかななくても、とにかく、やるしかないからです。がむしゃらでした。2年目になると、少しずつ自分の仕事を客観視できるようになり、「自分が良いと思うことを、他の人も良いと思うとは限らない」ことが分かってきました。また、自分の話を

相手がどう受け止めるのかを想像することも出来るようになり、仕事を見る視点が広がっていく、そんな気がしました。成立する商談も増え、成果が具体的な数字に現れてきました。そうなると思えないもので、仕事内容、土地柄、人間関係など、それまで不安に感じていたものについても、自分がどう向き合えばよいか、道筋が見えてきたのです。変化の背景には、先輩方の支えがありました。例えば商談資料の作成や訪問時のポイントを丁寧に説明し、成果が出せない私にも「君たちが次の時代の資生堂をつくるんだ」と声を掛けてくださいました。私が見守られていること、期待されていることを強く感じました。そうした先輩方に囲まれていたから、私ももっと学ぼうと思うように

なれたのでしよう。先輩の商談への同行や、部長クラスが行う大きな商談への同席を直訴したこともありました。自分が考えたことがうまくいかないなら、先輩方から学ぶのが一番だと考えたからです。そんな私の気持ちを、先輩方は受け入れてくださったのです。

皆で良いものをつくるために 自分を成長させたい

2年目には福岡オフィスへの異動もあり、営業範囲が大きく広がりました。プレッシャーもありましたが、周囲の期待の大きさに気付き、更にモチベーションが高まりました。この頃は本当に仕事に夢中でした。しかし、4年目を目前にしたある時期、私は仕事をやり尽くしたような気持ちになっていました。毎日の

*プロフィールは2012年3月時点のものです。社会人になってからの年数は、2012年4月時点の年数です

仕事があまく回せる感覚になって、以前のような感動が少なくなり、次の目標が分からなくなってしまったのです。でも、このままのんびりしては絶対に駄目だ。新しい目標に挑戦しなければ。それが出来ないのなら違う道も考えよう……そんなことまで思い始めた矢先、上司から「山崎は『もう学び尽くした』と思っているだろう」と言われたのです。

どうして分かるのだろう、と驚きました。私の心情を見抜いた上司は「その考えが間違いだ、すぐに分かる」と言い、私に新しい仕事を与



やまさき・れい◎1981年神奈川県生まれ。2005年株式会社資生堂入社。佐賀県内でルートセールス(定期巡回販売)を担当。5年間営業を経験した後、東京の本社へ異動し、営業部門で新入社員の研修業務に。11年10月から『UNO』『アウスレーゼ』など男性用化粧品の国内マーケティングを担当。

えたのです。新たな業務に挑む中で、自分はまだまだだと実感しました。新しい学びが始まりました。

仕事があまくいく時も、そうではない時も、私は常に上司や先輩に導かれていました。日々、成果を褒めてもらったり、改善点を指摘されたりすることで、確かに自分の成長を実感することが出来ました。尊敬できる上司や先輩がそばにいてくれたから、悩みも1人で抱え込まず、相談しながら仕事を進められるようになったのだと思います。

営業からマーケティングに仕事が

変わった今も、先輩方の力量には驚かされるばかりです。その理由を知るために、普段読んでいる本まで尋ね、そして私も読んでいます。憧れの先輩を追い掛けたのです。

周囲から豊かな刺激を受けながら、人は成長するのだと思います。私はまだ未熟ですが、ひるんではい

好きな仕事だからこそ
甘えず、高みを目指したい



オーガニック リラクゼーション サロン
「Plaisir—プレジール—」代表

梅山久美子

社会人
14年目

遠回りしてたどり着いた
子どもの頃からの夢

高校卒業後、地元の大分県日田市で働きました。最初の1年はビル管理会社の経理事務、次の1年は農協の契約社員です。先方は契約更新を勧めてくれましたが、別の仕事がし

たくて全国展開する宝石販売会社の日田店に転職し、2年間働きました。どの仕事も長続きしなかったのは、心から楽しいと思える仕事、やりたい仕事ではなかったからです。私は小学生の頃から家族にマッサージをしてあげるのが大好きで、高校時代にはツボに関する本を買って読

み、マッサージ師を目指そうとしたこともありました。しかし、国家資格取得のための学費が高額で、専門学校への進学を諦めたのです。

22歳の時、リラクゼーションサロンというものがあることを知りました。勤務していた宝石店の閉店が決まったこともあり、私は上京し、整体やアロマセラピーについて学べる学校に通うことにしました。周囲からは「東京は危険だ」「きつとまた長続きしない」などと反対されましたが、どうしても好きなことを仕事にしたかったのです。

資格を取得し、学校卒業後は4か所のサロンで経験を積みました。約3年間、独立開業資金としてコツコツ貯めたお金は400万円。そして、26歳になった時、私は自分の店を開くことを決めたのです。店舗探しはとて楽しく、30か所は見て回りました。今の店があるビルに来た時、お客様が来店して、自分が施術しているイメージが湧いたんです。店を開くならここだと思いました。

開店に向けて不安はありませんでした。むしろ、店を開けばお客様はきつと来るという妙な自信がありました。

した。ところが、開店当初こそ、友人たちや近隣の方々が来店してくれたものの、翌月からは売り上げは半分以下。家賃分も稼げない状況に陥りました。とてもこのままでは店を続けていけないと愕然としました。

3年間の休業時代に、集客の難しさは十分に理解していたつもりでした。それなのに私は、周辺に同業者がどの程度いるのか、どんな価格設定なのかなど、市場調査を全くしていませんでした。独立開業することだけが目的になって、そこから先を考えることが出来ていなかったのです。遅まきながら、近隣店の価格を調べたり、繁盛店のチラシを集めて店の訴求やサービスの仕方などを勉強したりしました。看板やポイントカードも作り替え、オイルやタオルは全てオーガニックのものに替えるなど、他店との差別化を図りました。すると、少しずつ新しいお客様が訪れ始め、顧客が増えていきました。

「もっとうまく出来る」より高いレベルの施術を目指す

私の仕事は、疲れた体をほぐし、心身をリラックスさせることです。



うめやま・くみこ◎1980年大分県生まれ。2007年に東京都杉並区にリラクゼーションサロン「Plaisir-ブレイズール」を設立。アロマトリートメント、ボディリラックス（骨盤調整など）、オーガニック商品の販売などを行う。卒業した大分県立日田三隈高校は本誌10年6月号「指導変革の軌跡 総合学科の改革」に登場。30歳になった卒業生が職業人としての思いをつづる「30歳のレポート」を取り上げた。梅山さんも昨年、後輩のためにこのレポートを執筆。

お客様一人ひとりの状態に合わせて施術の流れや力加減などは変えるため、この方法なら全員が満足するといった正解はありません。一番頼りになるのは目の前のお客様の反応です。経験を積むと手に伝わる感触で「これ以上圧を加えても痛いだけ」と分かってきます。お客様から「ずいぶん体が楽になった」などと喜んでくれた時はやはりうれしいですね。ただ、それで満足するのではなく、「このお客様にもっと合った施術はないか」とより高いレベルを追い求めることが必要だと思っています。

お客様の中には驚くほどゴリの強い方もいます。私は、少しでもほぐ

れるようにいろいろな方法を試し、お客様も「気持ち良かった」と言って満足してくださいます。しかし時には、お客様の状態を根本的に解決できておらず、私自身そのことに気付いている時もあります。自分の技術がもっと高ければ、お客様をもっと楽にして差し上げることが出来るし、そうしなければ、いつか「他のサロンの方が疲れが取れる」とお客様は離れてしまうかもしれません。

これからもたくさん勉強し、他の人から技術を学び、自分を高める努力を続けなければならないと強く思います。そして、社会のことも学びたいです。お客様の職業はさまざま

で、仕事の内容とコリや疲れは密接につながっているからです。いろいろな仕事について知っておくことも、体のケアのために必要なのです。東日本大震災の後、お客様の数が激減した時期がありました。「こういう時だから仕方ないよね」と同業の知人に話したところ、「それは言い訳だ。こういう時だからこそ、人々は癒やしを必要としている」と言わ

れました。確かに、その人のお店は震災前と変わらず繁盛していたのです。早速、こんな時だからこそお客様が気軽に立ち寄れるようにと、チラシや立て看板の内容を見直しました。私は今の自分の仕事が好きです。この先もずっと続けていきたいですし、もつと自分を成長させたい。その気持ちはこれからも変わらないと思います。

教え子全員が数学を好きになるまで授業を改善し続ける



長崎県立口加高校
教諭 長崎 直幸

社会人
18年目

菰田 清

数学の苦手な生徒でも理解できる指導は必ずある

私は今でこそ数学の教師をしています。ですが、高校1年生まで数学が苦手です。文理選択では文系を選んだほど

でした。ところが、2年生の時に教わった先生の授業が分かりやすく、勉強すればするほど問題が解けるようになり、それまで嫌だった数学の勉強が一転して面白くなったので、数学にすっぴりのめり込んだ私

は、3年生で理転し、大学は数学科に進学、更に数学を研究するため、大学院修士課程まで進みました。それまで全く分からなかったことが、先生の指導によって理解できるようになり、「数学は出来る」という自信が付いた。この体験が教師としての私の根底にあります。数学がどんなに苦手な生徒でも、指導の工夫で必ず理解できるようになる。この思いから、私は教師となったのです。

高い志はあったものの、高校の常勤講師2年目に、私は早くも教師の道を諦めました。受け持ちのクラスで赤点を3人も出してしまったのです。自分は教師に向かないのだと落ち込みました。しかし、子どもたちに教えることを諦められず、少人数なら指導できるのではないかと、個人塾を開業しました。小学校1年生から高校3年生まで、算数と数学を1人で教えるのは大変でした。しかし、親の反対を押し切って開業したため、後には引けません。自活できるだけの収入を得るには、目の前にいる子ども

の成績を上げ、塾生を増やすしかない、と、全学年分の教科書を読み込み、教え方を毎日必死で考えました。その結果、塾の評判は口コミで広がりがり、3年目には生徒が80人にまで増えました。すると、その実績を評価してくれた私立高校から教師としての就職を打診されました。理事長に「国公立大合格者が毎年10人以上出るようにしてほしい」と言われ、数学の学力の底上げを期待されたのです。少人数指導にある程度自信が付いていた私は、今度は学級規模で力を伸ばす指導をしてみたいと挑戦意欲が湧き、30歳の時に転職しました。

固定観念にとらわれず「生徒が分かる授業」に変える

国公立大合格と目標は明確でしたから、センター試験の過去問を分析し、分かりやすい説明を心掛けました。しかし、成績は思うように伸びませんでした。生徒は公立高校の併願校として入学した者が大半で、勉強に自信が持てず、数学にも苦手意識を持つ者が目立ちました。そうし



こもだ・せい◎1970年長崎県生まれ。大学院修士課程修了後、2年間の高校講師を経て、個人塾を開業。3年目に生徒が約80人に増え、地域で評判の塾となる。30歳から9年間、私立高校に勤務。学校初の九州大合格者を出した後、39歳で公立高校教師に転身。口加高校は赴任2年目。担当教科は数学。

た生徒を授業に向けさせるには、単に丁寧な指導では駄目だったのです。「授業そのものを変える必要がある」。数学が苦手だった頃を思い返しひらめいたのが「ノートを取らない」ことでした。授業中、生徒は板書を写すのに一生懸命で、私の話を聞けていないのではないかと。だから、家でノートを見ても復習できない。ならば、ノートは取らせずに板書を見ながら例題の説明をしっかりと聞かせ、すぐ類題を解かせてみようと考えました。これなら、数学が苦手でも板書を見ながら解答でき、その類題を解いたノートが板書を写す代わりとなり、復習にも役立ちます。

この方法で授業を続けたところ、成績が上がり始めました。そこで、生徒を授業にもっと集中させられないかと考えたのが「先読み指導」です。これは、私が板書することを生徒全員に予想・発言させてから、私が書くという方法です。私の話を常にしっかりと聞き、頭を働かせないと予想できません。しかも、生徒を当てて発言させるわけではないので、生徒は皆、授業に集中するのです。併せて、生徒が安心して授業を受けられる工夫もしました。私は高校時代、「聞いても分からない」から授業を聞きませんでした。それなら、授業を聞けば全てが分かるようにす

ればいいのです。既習の公式を黒板に書いたり、簡単な計算でも生徒と一緒に解いたりして、全員が解答にたどり着くようにしました。

そうした手法の一つひとつを、私は生徒から教わりました。思いついたことを試し、生徒の反応を見る。良かったら更に工夫を重ね、駄目なら別の方法を試す。目的は目の前の子どもが理解できることであり、今の指導にとらわれることなく、今のことで試せばよいのです。その思いで授業改善を重ねていきました。

生徒や同僚の目があつてこそ良い授業がつくれる

私立高校での目標を達成し、私は公立高校に転職しました。いろいろな高校に異動しながら、さまざまな生徒や教師に出会い、もっと懐の深い教師になりたいと思ったからです。良い授業は自分1人ではつくれません。授業を受けている生徒の反応を見取り、他の先生に授業を見てもらい、自分では気付かないことを指摘してもらおう。授業を客観視することが改善に結び付くのです。公立高校に来て、県内のみならず他県の先

生にも授業を見ていただく機会が増えました。先日、授業を見られた先生からの指摘をヒントに、板書の内容をあらかじめプリントにして、毎回配布することにしました。生徒の学力や意欲にどう影響があるのか、しばらく続けて反応を見てみようと考えています。また、私は予備校主催の教員研修を毎年4回必ず受けています。これも授業を受ける側の視点を忘れず、自分を客観視するために必要な学びだと考えています。

以前、数学の定期考査で6点を取った生徒が、私が受け持つようになり60点を取れるまでになりました。今では一番前の席でかじりつくように授業を聞いています。かつての自分がそうだったように、勉強が分かるようになり、自信と出来る喜びを感じ、そしてもっと学びたくなったのでしょう。そうした生徒の成長を見る度に、自分ももっと勉強し、今以上に授業を良くしようと思います。目標は受け持った生徒全員が「得意科目は数学」と言うようになることです。道のりはまだまだ長いですが、いつか必ず達成できると信じ、授業を進化させ続けようと思います。

まる
ぼつ
○か×か明確でないからこそ
「もう一丁!」と挑み続けたい

社会人
27年目



株式会社ベネッセコーポレーション
国内教育事業本部 副本部長

山河健二

高校が大切にしてきた思いは
ますます社会で重要になる

学び続けること——それは私にとつて、「もう一丁」の心意気といえます。

私たちは仕事をしていて、「完全な成功」を収めることは実はほとんどありません。一見うまくいったように思えても、「あの時こうしておけば」「次はこうすれば」と思うことばかりです。反対に、大きなミスをした時も、原因と向き合う中で「もう1回やってみる」と周囲からチャンスをもたらえることもよくあります。仕事の結果は本来、○か×かで評価できるものではなく、いつも△。

それでも○を目指して「もう一丁」と挑む。それが私たち、社会人の学びだと思ふのです。

「もう一丁」の心意気は、社会のグローバル化によってますます重要になるでしょう。言葉どころか価値観も異なる相手に自分の考えを伝え、理解し合うことはそう簡単ではありません。それでも「無理だ」と投げ出してしまわずに、「もう一丁」と異なるものに向き合える人を社会は今まで以上に必要としています。「もう一丁」の心意気は、そもそも高校現場が生徒を指導する際に最も大切にしてきたものです。受験勉強を通して生徒は、第1志望を諦めるのか、それとも夢を追い掛けて頑



やまかわ・けんじ◎1963年岡山県生まれ。1986年、福武書店(当時)入社。中四国、九州、中部エリアで高校事業関連の営業担当を経て、03年高校事業部営業本部長、07年高校事業部長を歴任し、11年より現職。

張り続けるのか、常に問われています。センター試験で思うように得点できなかった時も、簡単に志望校を変えられるのではなく、個別学力試験で挽回できるよう努力を続ける。先生はいつも生徒に「諦めるな」「もう一丁だ」と言い続けているはず。」「もう一丁」という言葉が社会人として学び続けることの意思表示だとすれば、学びを放棄する言葉は「何もそこまで」でしょう。この言葉が蔓延する職場は、どんな企業であれ必ず輝きを失います。そして、これは高校現場にも言え

ます。私は、27年間、たくさん的高校現場を見てきました。職員室に「何もそこまで」という言葉が広まると、先生方の生徒への関与は目に見えて減っていきます。熱があるからと学校を休んだ生徒に電話をしようとする担任に、「それは家庭の問題だから、学校が何もそこまで……」。家庭学習の記録を取ろうとする先生に、「何もそこまで」という言葉が聞こえ始めると、学校であれ企業であれ、衰退が始まります。学校も企業も、職場の良い雰囲気をつくり

特集 高校教育の役割 学び続ける姿勢を育む

SPECIAL ISSUE

上げるのはとても難しいけれど、壞すのは本当に簡単です。一生懸命やっている人に一言、「何もそこまですなくても」と周囲がささやくだけでよいのですから。

半歩先を歩く勇氣と 失敗を受け入れる度量を持ちたい

私が高校の先生方のお手伝いをする上で、いつも心に留めていることがあります。それは「半歩現実、半歩未来」です。教育という仕事は、重くのしかかる現実の中でもがくとだと先生方から教わりました。ただ、現実を直視する一方で、半歩未来を見なければいけないことも学びました。先生方が目の前の現実に重きを置いていくからこそ、外からお手伝いする私たちは、5年先、10年先のことをいつも気に掛けていた。私に限らず、弊社の社員は皆、そうありたいと考えているはず。ただ、半歩先を行くと口で言うのは簡単ですが、その半歩が本当に正しいかどうかは誰にも分かりません。社員一人ひとりが「本当にこれでよいのか」と悩みながら、それぞれの半歩を進めています。

だからこそ、私は特に若い後輩に、失敗の中からも学ぶものがたくさんあること、「もう一丁」の心意気で挑み続けることの大切さを訴えたいのです。当然、私は部下が必死に考えてたどり着いた結論であれば、それを信じて受け入れなければいけません。どんな仕事でも失敗なしで学ぶことは困難です。社会が大きく変化し、10年先が誰にも予想できない時代であれば、それはなおさらです。

学校も、先生方にとって失敗をさらけ出せる場所であってほしいと心から思います。生徒にとって身近な社会人のモデルである先生が失敗の中から学び、「もう一丁」と挑む姿を見せることは、生徒に大きな影響を与えます。そして、職員室で「どうやって教えたらいのだろう」「どうすればあの生徒の心を開けるのだろう」と自分の苦手や弱みを赤裸々に語り合うことで、先生方は互いを補い合える最高のチームになれるはず。これからも「もう一丁」と挑み続ける。そして仲間の「もう一丁」を応援する。それが私の目指す「学び続ける姿」です。

上下関係を超えて皆と学び合い 料理を通してお客様を喜ばせる



日本料理 作一 西店
店長

野原 廉志

社会人

34年目

与えられた以上の仕事を もろうために、人一倍動いた

作一で働き始めて32年目になります。高校卒業後、別の日本料理店に勤め、10人程の料理人の真ん中くらいの立場になりました。だから、「和食の世界って簡単なんだな」と高をくくっていました。ところが、作一に入り、鼻をへし折られました。先輩に「これ、何か知っている？」と食材を見せられた時、何一つ答えられなかったのです。それらの食材は小メロンなど、今の自分には決して珍しいものではないのですが、先輩には「料理屋で働いていたのでは無いの？」とあきれられました。「なんだ、自分は全然駄目なんだ」と気が付きました。21歳の時です。

作一での再スタートは一番下からですので、仕事は雑用ばかり。もちろん料理は作らせてもらえません。悔しかったですよ。年下の先輩に負けたくないですから。だから、人一倍動こうと思えました。仕事は出来るだけ早く済ませ、先輩に「何かすることはありませんか」と聞くようにしました。すると「これをやっつけ」と新しい仕事をくれます。そうしたら、それも出来るだけ早く、しかも完璧に終わらせる。睡眠時間も削り、とにかく仕事をしました。そのうち、一番下の私がやる仕事がなくなくなってきました。それでも手が空いているわけですから、今度先輩がしていた仕事を回してくれるようになる。そうして自分でチャンスを広げていきました。

ようやく少しずつ味付けを任せられるようになったのは、25歳の頃です。今でもはっきり覚えているのは、黒豆を炊いた時のことです。大きな鍋で柔らかく、豆にしわが寄らないように、2、3日掛けて丁寧に炊きあげていきます。この仕事だけは徹夜で鍋を見なければなりません。私が見つめた黒豆をお客様が「おいしい」と食べてくれた時は、徹夜して作った良かったと心から思いました。豆ととことん向き合えた自分に自信が持てましたし、褒められて「もっと上達したい」と意欲が湧きました。



のはら・きよし◎1959年山口県生まれ。80年、大阪心斎橋の日本料理店作一に入店。同店は同じビルに本店を含め3つの店舗を展開。本店は『ミシュランガイド京都 大阪 神戸 奈良 2012』に掲載される。西店は旬の食材を使い、常時130種類以上の料理を提供。献立は毎日の仕入れに応じて見直される。

どん欲に学ぶ若手に どこまでも付いていきたい

西店の店長を任せられるようになって心掛けているのは、若手にも評価される機会をつくることです。うちの店は、カウンター越しにお客様の反応がすぐに伝わってきます。お客様が「この焼き物はおいしい」とおっしゃったら、私は「彼が焼いたんです」と焼いた者を紹介するようにしています。するとお客様はその者にも「おいしいよ」と言ってくれます。自分の仕事が評価される喜びを味わ

えば、彼らは料理をもっとうまくなりたいと考え、努力します。私たちの仕事は、ただ料理を作ることではありません。料理を通して、お客様を幸せにすることが仕事です。お客様が喜ぶ顔を見ることが、若手にとっても学びの原動力になります。

若手を育てるためには、私自身が「この程度でよい」と思わないようにすることが大切です。私も若い頃、身近に憧れの先輩がいたから頑張れました。一歩も二歩も前に進もうとする姿をいつも後輩たちに見せたいと思っています。私が「今のままで十分」と思ったら、私はそこから向上しないでしようし、後輩たちの気持ちも離れていくはずですよ。

また、店の皆で料理について話す機会を出来るだけつくるようにもしています。若手に、私が知らなかったことを教えられることもあり、私が「そんなことを知っているなんてすごいね」と言うと、更に調べてきて「こんなことも分かりました」と皆に教えてくれます。上下関係を超えて、皆で一緒に勉強し、向

上する雰囲気がこの店にはあります。若手を見ると、かつての自分のように、もっといろいろ覚えたい、たくさん仕事をしたいという表情をしています。元はと言えば、自分たち年長者が後輩に「頑張って上がってこい」とけしかけたからです。若手が向上しようとするのは自分たちがまいた種なのだから、私も気持ちを奮い立たせ、彼らのどん欲な姿勢にどこまでも付いていくつもりです。

今も私は朝市に出掛けて野菜を買い、山奥まで清水をくみに行きます。1日の睡眠時間は4時間程です。でも、「面倒くさいから若手に行かせよう」とは思いません。最高の食材をどう料理すれば一番おいしくなるか、お客様の顔を思い浮かべながら考えるとワクワクします。もちろん寒い日には、もう少し布団の中になりたいと思うことはありますよ。でも、「今日はどんな魚が入ってくるかな」と考えた途端、寒さなんか気にならなくなるんです。

料理が好きという以上に、お客様の喜ぶ顔を見るのが私は好きなんです。

共に学び続ける 仲間たちへ

最良の学びの場を準備し 生徒が選ぶように導く

学び続ける生徒をどのようにして育てるのか。この問いには、きつと教師一人ひとりがそれぞれの答えを持っていくことでしよう。では、私が自分の経験から答えるとしたら——それは「自ら学び、成果をつかむ体験を生徒に積ませる」です。

かつて部活動が盛んな高校に勤務した時、引退した3年生を支援するために、放課後と週末に入退室自由の自習用教室を設けました。仲間と一緒に勉強できるので怠けずいられるし、教師が常駐しているので気軽に質問できると、生徒に好評でし

学びの感動を味わわせるために まず教師自身が学び続ける

愛媛県立松山東高校 教頭 大内洋一郎

学び続ける生徒を育てるために、一人の職業人として教師自身が学び続けなければならぬ——。さまざまな高校で学校改革に立ち会ってきた、愛媛県立松山東高校の大内洋一郎教頭が生徒と教師の学びを語る。

た。部活動に傾けてきたエネルギーを学習に向かわせるちよつとした手伝いを始めただけですが、その学年は過去にない合格実績を上げました。

難関大に多くの合格者が輩出する高校に勤務した時は、限られた時間で最大の効果を上げられるように、良問を集めたプリントを作り続けました。数多くの教科を学習しなければならぬ生徒に、問題集を薦めるだけではなく、授業の進度、難易度に合った問題を精選し、提供しなかったのです。ただし、活用するかどうかは生徒の自由。職員室前の廊下に何十枚も並べておき、学習したい生徒が自分のペースで好きなだけ持ち帰れるようにしました。

どちらのケースにも言えるのは、「教師は機会をつくるが、それを選ぶかどうかは生徒に任せる」というスタンスです。とはいえ、その機会には生徒にとって魅力的なものでなければなりません。例えば、プリントも問題集をコピーしただけのものなら、生徒は手にしなかったかもしれない。自分たちのことを一番知っている教師が手作りしたプリントだからこそ、「信じてみよう」と生徒は持ち帰ったのだと思います。

教師を、学校を信じて「やってみよう」と決意した瞬間、生徒の自発的な学びが始まります。最初から生徒任せにして「やりなさい」と指示するだけでなく、生徒に「やってみよう」と思わせるまでとことん手を掛けることが大切だと思うのです。

教師から与えられた学習ではなく、自分で切り開いてきたと納得できる学びで志望校に合格する。だからこそ、大学進学後も学び続けることが出来る。このような経験を積んだ生徒は、社会に出てもそれぞれの分野で生き生きと活躍しています。私は同窓会で教え子たちに再会する度に、それは間違いなことだと確信しています。

教師の勉強不足で 生徒の将来を狭めてよいのか

「やってみよう」と思えるまで生徒に手を掛けるのは、教師にとって

は手が掛かることであり、そこには情熱が欠かせません。そして、生徒は教師の振る舞いから情熱の有無を敏感に察知します。教材研究にしっかりと取り組んでいるか、大学・学部に興味・関心を持っているかなど、とてもよく見えています。もしかすると、当の教師だけが、自分がどれほど生徒から厳しく評価されているのかに気付いていないのかもしれない。事実、私は進路指導部に所属していた時、生徒から「A先生がレベルの低い授業しかしてくれない」「B先生のように厳しく指導してほしい



おおうち・よういちろう◎愛媛県立松山南高校、愛媛県立今治西高校、愛媛県立松山北高校などに勤務。進路指導で中心的役割を担う。2009年度から愛媛県立上浮穴高校教頭。11年度から松山東高校教頭。担当教科は数学。

い」と直訴されたことがあります。もちろん教師といえども、いろいろな失敗をすることがあります。私は20代で3年生を受け持った時、生徒の1人にこんなことを言われました。「隣のクラスの子と同じ大学を志望していたのに、その子は担任から勧められてその大学に推薦で合格した。なぜ先生は私にも勧めてくれなかったのか」。未熟だった私は、推薦入試の情報を把握しておらず、生徒の受験機会を奪ってしまったのです。確かに、ベテラン教師と若手教師

では経験もスキルも違います。では、担任の経験やスキルによって、生徒は当たり前外れを我慢しなければいけないのか。そう自分に問いかけた時、私はどきっとしました。たとえ経験が浅い若手であっても、進学や就職という人生を大きく左右することに關して、生徒の選択の幅を狭めてしまうことなど、教師である限り、プロとして許されるはずがないのです。

この失敗を機に、私は必死で勉強するようにになりました。夜、布団の中で全国の大学・学部の入試科目や配点を眺めて「この入試科目なら、どの生徒が一番力を発揮できるだろうか」と考えながら眠りました。いわば教師としての学びのスタートでした。1人の職業人として、教師は日々勉強しなければなりません。このことに異を唱える人はいないはずですが、しかし今、世の中全体で「自分のことは自分自身で決めるべきだ」という考えが強まるあまりに、子どもたちまでもほったらかしにしようとしている、そんな雰囲気を感じること

があります。

はっきり言えば、私は高校生が「自分の力だけで」自己決定することなど出来るわけがないと思っただけです。大人がいろいろな情報や選択肢を提示しながら、生徒の自己決定を促す必要がある。それをせずに「自分で決めなさい」と言うのは、生徒とのかかわりを拒否し、ただ大人が楽をしようとしているだけです。

生徒は手を掛けすぎても、手を離しすぎても伸びません。生徒の自立を緻密な計算で導く必要がある。その絶妙なバランスを取れるようになるために、教師は常に学び続けなければならぬのです。

極端に言えば、教師という仕事は、生徒の志望を実現してもしくなくとも給料は変わりません。では、何を動機に私たちは学び続けるのでしょうか。何かをやり遂げた時の生徒の笑顔が見たいからです。人は、払った努力が大きいほど、報われた時に大きな喜びを得ます。だからこそ、生徒も教師も学び続けるのではないのでしょうか。

*プロフィールは2012年3月時点のものです



◎札幌尋常中学校として開校、1950年に現校名に改称。「堅忍不拔」「自主自律」を掲げ、調和の取れた人格の形成を目指す。部活動では、2011年度に、陸上競技部、弓道部、ダンス部、放送局（部）が全国大会への出場を果たした。

設立	1895(明治28)年
形態	全日制・定時制／普通科／共学
生徒数	1学年約320人
11年度入試合格実績(現浪計)	国公立大は、北海道大、旭川医科大、札幌医科大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、京都市大、大阪大などに250人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大など延べ273人が合格。
住所	〒064-8611 北海道札幌市中央区南18条西6-1-1
電話	011-521-2311
Web Site	http://www.sapporominami.hokkaido-c.ed.jp/

北海道
札幌南高校

進路意識向上

3年間を見通した 進路体系を生徒の 変化に合わせて再構築

変革のステップ

<p>背景</p> <p>◎学区撤廃で成績上位層が増加し、地域の期待が集まる。加えて、札幌市内の進学校で切磋琢磨する機運が高まる</p> <p>STEP 1</p>	<p>実践</p> <p>◎3年間を見通した指導の体系化、生徒の視野を広げる進路学習の整備、課題プリントや補習の充実を進める</p> <p>STEP 2</p>	<p>成果</p> <p>◎学校の方向性が定まり、自校の取り組みに対する教師たちの自信が深まった</p> <p>STEP 3</p>
---	---	---

市内の学区撤廃により
成績上位層の生徒が増加

北海道札幌南高校は、2008年度から高校3年間を見通した進路指導の体系化と教師の目線合わせを軸とした改革を進めている。

同校の進路実績は堅調で、例えば、東京大合格者は08年度入試で11人、翌09年度は21人と大きく伸びた。この実績を維持しようという意識が校内で高まったことが、改革の背景の1つにある。

更に、09年度高校入試から札幌市内の学区が撤廃されたことも、教師の改革意欲につながった。かつて札幌市は東西南北の4学区に分かれていたが、この年度の入試から市内のどの中学校からでも受験できるようになった。こうした変化について、3学年担任の高桑知哉先生は次のように話す。

「学区が撤廃されてから、札幌市西区や北区など、以前は本校の学区外であった地域から通学する生徒が大幅に増えました。自宅から遠いにもかかわらず、本校を選んだ生徒たちの期待に応えなければならぬと強く感じています」

札幌市内の進学校の間で、切磋琢磨する機運が高まりつつあったことも、同校の改革を後押しした。同校が改革に着手した頃から、札幌北高校、札幌東高校、札幌西高校、及び同校の4

校で、毎年、一部の外部模試を合同受験している。市内全体で生徒が競い合い、刺激を与え合う雰囲気醸成されつつあった。進路部長の榎戸智司先生は次のように述べる。

「市内の4校は、切磋琢磨するライバルであると同時に、互いを励まし合い、支え合う仲間でもあります。他校の優れた取り組みに刺激を受け、一緒に出来ることはないかと常に相談し、考えています。また、成績上位層を意欲的に伸ばしていく指導や取り組みを体系化し俯瞰して見る姿勢など、他校に学びながら自校の指導を見直しています。どの学校の教師も共通して抱いているのは、『北海道全体の教育の質を高めていきたい』という思いです。日本のみならず世界で活躍する人材



北海道札幌南高校
榎戸智司 えのきど・さとし

教職歴24年。同校に赴任して7年目。進路部長。「自ら考える生徒を育てたい」



北海道札幌南高校
石見博史 いしみ・ひろし

教職歴33年。同校に赴任して5年目。進路部副部長。「夢を持ち続けている限り、どんな形によも実現することを生徒に伝えたい」



北海道札幌南高校
高桑知哉 たかくわ・ともや

教職歴21年。同校に赴任して4年目。3学年担任。「心・知・体」のバランスの取れた生徒を育てたい」

を育成するために、他校の先生方と話し合い、高め合っていきたくと思っています」

生徒の10年後を見据えた 進路指導の重要性を共有

進路指導の体系化は、08年度の1年生から始めた。全ての取り組みを列挙し、その一つひとつの狙いや方法を明確にし、図式化した。他学年も、同学年の方法を参考にしながら指導計画を立て、それに基づいて09年度から全学年が動き始めた。08年度の1学年担任を務めた進路部副部長の石見博史先生は、当時を次のように振り返る。

「本校は伝統的に学年主導型の指導であり、ある取り組みが成功しても、そのノウハウが次の学年に引き継がれることがあまりありませんでした。学校全体で動くためには、学年を超えて教師が共有すべき指針が必要だったのです。何か新しい取り組みを始めたというよりは、それまで行ってきたことを整理し、意義付けを行ったに過ぎません。これまでの取り組みの良さを残しつつ、学校としてもう一段階成長するためには、教師間で目線を合わせて指導に臨むことが不可欠だと思います」

体系化を進めるに当たり、教師が心掛けたのは、生徒が見通しを持って取り組める年間計画

を立てることだ。重要な取り組みは全て、方法や目的、留意すべき点を明示して、生徒にも目的意識が浸透するよう留意した（P.18図）。

教師間で指導方針のすり合わせをする過程で、最も意見が分かれたのは、現役合格を重視すべきか、浪人をしてでも希望を貫かせるべきかという点だった。そこで出た結論は、始めに現役ありき、浪人ありきという方針ではなく、「一人ひとりの生徒の将来を見据えて、最善の進路を考えていく」ということだった。

「生徒に10年後、20年後を真剣に考えさせることを重視しました。目の前の壁への対策ではなく、将来を考えた時、今の自分にとってどの選択が最良なのか。生徒自身が考えた上で決意できるようにすることが重要だと話し合ったのです。教師には、幅広い選択肢を示して生徒の視野を広げ、現役・浪人を問わず共に進路を考える姿勢が求められます。これまででも、そうした指導を心掛けてきた教師は多くいましたが、改めて学校全体で方針を共有したことで、ぶれない進路指導が可能になりました」（榎戸先生）

校内実力テストについても、回ごとの位置付けを明確化し、平均点の管理も心掛けるようになった。教科ごとの難易度の差や平均点のばらつきを是正し、偏差値がいくつなら北海道大を狙えるというように、合否判定が出来る精度の高さを追求していく考えだ。

*プロフィールは2012年3月時点のものです

生徒の視野を広げる
多様な進路学習

生徒の視野を広げるための進路学習の充実も
図った。その背景には、生徒の希望進路の偏り

由で、医学部にこだわる生徒の意識を変える
必要がありました。「人の生命を救う仕事」は、
医師だけではなく、多様な選択肢の中から選び取
ってほしいと考えたのです」(高桑先生)

1 学年		進路だより		第3号 平成23年5月10日(火)	
4月11日(月)の学年集会では、南高での3年間の流れ(1年生:職業について知る、2年生:大学について知る、3年生:受験に向けた総仕上げ)の概略を説明しました。今日は、この1年間の進路指導の流れを説明します。 この1年間は、下の表のように行っています。自分は将来どのように社会に貢献していくのか、そのためには高校卒業後どのような進路を選ぶべきなのか、しっかり考えていきましょう。					
1 学年 進路指導1年間の流れ					
月	主な学校行事	学年LHR	校内実力テスト・講習・面談等	模擬試験	備考
4月	8(金)入学式	12(火)スタディーサポート 第1回	校内実力テスト・講習・面談等 日頃の学習への取り組みや基礎学力の確認をするためのものです。「学習法情報誌」を参照し、自分の弱点を補強し、今後の学習の指針として活用してください。3月にも実施します。		
5月	中旬 PTA総会・保護者懇談会 下旬～ 高体連支部大会	10(火)進路指導1年間の流れ(LHR) 19(水)スタディーサポート返却(LHR)	11(水)第1回校内実力テスト 中旬 保護者懇談会(PTA総会に合わせて)	1. 指導内容の定着、2. 応用力の養成、3. 進路実現のための学力定着を目指して、年3回(5月・10月・2月)実施されます。レベルの高い問題にチャレンジすることによって、豊かな実力をつけていきましょう。	
6月	第1回定期考査 8(水)-13(月) 15(水)春の生徒会行事	16(木)「進路のしおり」配布・説明	上旬 夏期講習計画発表 「進路のしおり」とは、今年度の卒業生の入試結果を基とした資料です。先輩達のデータや合格体験記、南高独自の貴重な資料です。		※2年次選択科目についての指導と確定
7月	学校祭 8(金)-10(日) 夏期休業 23(土)～	6～14月の10日間を期間を利用して「進路学習」を行います。「何のために、どんな学部・学科を選択するのか」を考えるための第一歩として、まずは大学卒業後の職業を中心に知識を学び、考えたいきます。レポートにより各自調べたことを提出してもらいます。	夏期講習 23(土)-28(木) 英・数・国の3教科で実施されます。普段の授業だけではカバーできない難関校受験を行います。大学受験に向けて、準いうちから実力アップに取り組みしましょう。	16(水)進路総合学力テスト 全国で40万人以上の生徒が受ける模擬試験で、全国レベルの中で自分の力を確認します。日頃の学習の成果を評価できるように頑張らしましょう。11月にも実施され、いづれを学校で一応して申し込み、学校会議で受験します。	
8月	17(水)始業日	25(木)進路学習ガイダンス(LHR)	生徒面談②		卒業生と語る会 大学生になっている先輩を招き、各大学の話を聞いていただきます。受験勉強の方法、大学生生活の裏面など、さまざまな話を、アウトホームな雰囲気の中で聞くことができます。8～9月にかけて、複数回実施予定です。
9月	第2回定期考査 7(木)-8(火) 15(木)16(金)秋の生徒会行事	8(木)職業研究①(LHR)			

毎年5月に配布する「進路だより」には1年間の進路行事をまとめて掲載する。生徒に行事の狙いや取り組み心構えを示している
*学校資料をそのまま掲載

がある。同校の生徒は医学部志望者が多く、その割合は入学者の3分の1に上る。しかし、中には、医療についての知識が乏しいのに医師を希望する生徒や、最初から「医師になるものだ」と思い込んでいる生徒も多く、教師はもっと広い視野で将来を考えてほしいと感じていた。

「医学部を志望すること自体は良いのですが、自分の適性を考えず、やみくもに志望する生徒が見受けられることが問題でした。成績が良いから、他の職業を知らないからというだけの理由で、医学部にこだわる生徒の意識を変える必要がありました。『人の生命を救う仕事』は、医師だけではなく、多様な選択肢の中から選び取ってほしいと考えたのです」(高桑先生)

北海道大の教授を招いた「進路講演会」では、近年の学問領域の広がりや、学問の融合化をテーマに語ってもらった。また、「卒業生と語る会」を8月下旬から9月上旬にかけて行い、札幌医科大学、東京大(文・理、後期日程合格者)、一橋大、京都大に通う卒業生を招いて、大学の学びや受験勉強のアドバイスなどについて在校生と語り合ってもらった。

1・2年次の秋には「職業人インタビュー」を行った。これは、自分の家族の職業についてレポートをまとめ、生徒間で共有する取り組みだ。報告し合うことで、周囲の人以外の職業に目を向けるきっかけとするのが狙いである。

このような進路学習の他に、生徒の志望を広げるために、面談をより重視するようになった。

「理由も明確でないまま医学部を志望する生徒には、本当にそれで良いのか、東京大や京都大のような総合大学ならば、医学だけでなく幅広く学ぶことも出来るのではないかと揺さぶりをかけていきます。また、学力が不足している場合は、今の学習方法で良いのか、志望を実現するためにどのような努力が必要かなど、現実を見せて覚悟を促します。教師が問い続け、生徒自身にしっかり考えさせることが、生徒の幅広い進路を保証することにつながると考えています」(榎戸先生)

時に励まし、時に厳しく現実を突き付ける。教師によってアプローチは異なっても、生徒の

10年後、20年後を見据えて最適な進路を考えるという方針が共有されているので、基本線がぶれることはない。

生徒のやる気に火をつける 「きっかけ」づくり

生徒の主体的な学びや自律的な活動を重視する方針は、同校では創立以来の不文律となっている。ただし、ここ数年は生徒の気質が変化し、中学校の成績上位層が集まる同校においても、受け身の生徒が増えているという。

「本校では伝統的に生徒の自主自律を重んじています。しかし、そのあり方は時代の要請と共に変わっていくものだとも思うのです。目の前の生徒を見て、進路への意識付けだけでなく、教科面でも刺激を与える必要性を感じました」(榎戸先生)

そうした中、教師が意識するのは、学びに向かうための仕組みをどう準備するかである。具体的には、課題の提出や補習を必須とするなど、単に手取り足取りの指導をするのではなく、教師がある程度、生徒の学びをリードしつつ、さりげなく意欲を刺激していく手法を取っている。そのさじ加減は、榎戸先生いわく「1から10まで手を出すのではなく、1から3くらいまで手を掛ける」感覚であるという。

例えば、高桑先生は担当教科の化学で、2年

次の秋から3年次2学期まで、週2〜3回のペースで早朝講義を行った。同校では原則として朝学習や放課後補習は行わないため、この早朝講義は自由参加であったが、常時40〜60人の生徒が受講し続けたという。また、国語科担当の榎戸先生は、3年次の秋に現代文の放課後補習への参加者を募ったところ、初回到20人程の参加があったため、5回の臨時補習を組んだ。

「本校の生徒は基本的に学ぶことが好きで、多くの生徒が学習の仕方やペースを構築する力を持っています。教師がすべきことは、そうした生徒たちの心に火をつけるかということだと思っています」(高桑先生)

石見先生は、現代文の授業で生徒に書かせた要約文のうち、優秀なものを印刷して配布している。「もっと上手に書きたい」「自分ならもっとうまく書けるのに」という生徒の意欲を刺激するのが狙いだ。

「本校には学習に対してプライドを持って入ってくる生徒がほとんどです。そのプライドをくすぐり、切磋琢磨する雰囲気をつくり出し、生徒の意欲を引き出していきたいと思っています」(石見先生)

前年踏襲ではなく、 目の前の生徒に応じた指導を追求

自主学習用の課題プリントが定着したのも、

ここ数年のことである。生徒が自由に持ち帰って取り組めるよう、教科を問わず、各階のレターケースにプリントを常置している。ほとんどの生徒が自主的に取り組んでいるという。

「プリント学習を継続することで地力が付き、自分で羽ばたいていけることに気付かせるのが狙いです。いずれは生徒が自律的に取り組むようになるのが理想ですが、自分でどんどん進める生徒がいる一方、『プリントが終わったのでどうしましょう』と、最後まで教師に頼ってくる生徒も少なくありません。さまざまな学校の取り組みを見ても、本校は『まだまだこれからだ』と感じます。変化していく生徒をつぶさに見取り、教師自身も学びながら、自律的な生徒を育成するために取り組みの改善を続けていきたいと思っています」(榎戸先生)

体系化した指導を更に改善しつつ、次の学年に引き継いでいくことも、今後の課題である。

「取り組みを整理し、学校の方向性を明確にしたことで、一つひとつの取り組みに対して先生方が自信を持って臨んでいると感じます。ただ、正直なところ、ようやくスタートラインに立てたというのが、私の実感です。今後、先生方との共通理解を更に深め、取り組みをどのように発展させるのか、生徒の変化を捉えながら知恵を出し合っていきたいと思っています」(石見先生)

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。

2011年6月号指導変革の軌跡「三重県立四日市高校」など

▶▶▶ <http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け)



◎中野学園を母体に男女別学校として開校。建学の精神は「質実剛毅」「協同自治」。1994年に共学化。明治大の付属校の1つとして、毎年約8割の卒業生が同大に進学する。2011年度、高校卓球部が関東新人大会で優勝。

設立

1984(昭和59)年

形態

全日制／普通科／共学

生徒数

1学年中学校160人、高校315人

11年度入試合格実績(現役のみ)

国公立大は、筑波大、東京外国語大、首都大東京などに5人が合格。私立大は、明治大に249人が進学その他、東京理科大、早稲田大などに56人が合格。

住所

〒192-0001
東京都八王子市戸吹町1100

電話

042-691-0321

Web Site

<http://www.mnh.ed.jp/>

東京都・私立

明治大学附属中野八王子中学・高校

大学付属校の進路指導

生徒の甘えを取り除く 徹底した指導で 意識と学力の向上を図る

変革のステップ

背景

◎中学校入試の志願者数の減少、明治大から学力向上の要請などにより、学力低下に対する課題意識が高まる

実践

◎「生活カード」による学習習慣の定着、予習・復習や課題、小テストの徹底により基礎学力の向上を図る

成果

◎学力が向上。学習に対する生徒の意欲、学力向上への指導に対する教師の意識も高まる

STEP 1

STEP 2

STEP 3

「付属校」という甘えが
学習意欲の低下を招く

明治大学附属中野八王子中学・高校は、東京西部の自然豊かな八王子市の丘陵に立地する中高一貫校である。明治大の付属校の1つで、毎年約8割の生徒が内部進学する。

同校が学力向上策に着手したのは、10年程前のことだった。他の付属校に比べて知名度が低く、最寄り駅からバスで15〜25分という立地上の不利もあり、一時期、女子生徒の志願倍率が1倍近くまで落ち込んだ。進路指導主任の矢作健輔先生は次のように述べる。

「本校には中学校受験を勝ち抜いた優秀な生徒が大勢入学しますが、明治大への入学がある程度保証されていることもあり、学習に対するモチベーションを維持するのは容易ではありません。明治大に入ることだけを目的とするのではなく、大学で中心人物として活躍できる学力や素養を身に付けさせることによって中学校、高校としての魅力を増し、受験生に選ばれる学校となる必要性を感じました」

明治大から寄せられる期待も、年々高まっている。「内部進学者は、他の学生に比べて学力が低い」「学ぶ意欲はあるのか」「もっと学力を伸ばしてほしい」。そうした要望を、大学入学時に行われる英語テストのスコアやGPA

(*1) といった具体的な数字と共に突き付けられた。永田宏教頭は次のように述べる。

「付属校出身の学生には、大学の中心となつて他の学生をリードする役割が求められています。本校の卒業生には学部長賞を受賞するほど優秀な学生もいますが、どうしても成績下位層の学生が目についてしまいます。『明治大への進学は決まったも同然』という生徒の甘えを拭いきり、本校入学後こそがスタートであることを意識させる必要があると感じていました」



永田 宏 *ながた ひろし*
明治大学付属中野八王子中学・高校教頭
教職歴29年。同校に赴任して27年目。「常に生徒の Handbook であり、憧れの大人像であるよう心掛けている」



矢作 健輔 *やはぎ けんすけ*
明治大学付属中野八王子中学・高校
教職歴・同校赴任歴共に22年。進路指導主任。「勉強でも部活動でも頑張る生徒は輝いている。いつもそばにいて手助けし、喜びを分かち合いたい」



芦澤 健雄 *あしざわ たけお*
明治大学付属中野八王子中学・高校
教職歴・同校赴任歴共に21年。中学2学年担任。広報委員長。「学問の習得が、人格形成につながるような学びの場づくりをしたい」



田中 秀明 *たなか ひであき*
明治大学付属中野八王子中学・高校
教職歴・同校赴任歴共に17年。中学1学年主任。「人として大切なことを伝え、当たり前前を当たり前前に出来る人を育てたい」

「生活カード」を活用し 生徒に家庭学習習慣を定着させる

付属校での指導の難しさは、一般的な高校に比べて大学入試のハードルが低いため、生徒が学習に対する目的意識を持ちにくく、家庭学習習慣が定着しづらいことだ。

家庭学習習慣の定着のために同校が活用するのは、生活記録表だ。中学校では、2010年度の中学1年生から「生活カード」を取り入れ、起床・帰宅時間、家庭学習時間と取り組んだ教科など、学習と生活の記録を毎日記入・提出させ、担任がコメントを書いて返却している。家庭学習の目標時間は、中学1年生の2学期までは60分、3学期以降は90分とした(P.22図)。

カードには保護者からのコメント欄を設け、家庭と学校が共に子どもを見守る意識を醸成できるようにした。その結果、カードを導入した11年度の中学2年生は、数年前と比較すると平日・休日共に約30分程、家庭学習時間が増加したという。中学1年生学年主任の田中秀明先生は、その効果について次のように語る。

「中学1年生は入学したばかりで緊張感がある上、生徒の学力差がそれほど開いていないので、学習した成果が成績に反映されやすい傾向があります。実際、学習時間の多い生徒ほど成績も良いという結果が明確に出ています。生徒にはそのことをきちんと伝え、学

習時間と成績の相関を実感させることで、生徒に家庭学習の重要性を意識させています」
また、同校は付属校でありながら、生徒の学習意欲を継続するため、国公立大受験を奨励している。

「明治大への内部進学が決まる高校3年生の12月以降になると、勉強しなくなる生徒が少なくありません。そこで、国公立大の受験を奨励することによって、3年生の3学期になつても学習意欲を保つことが出来るのではないかと考えました」(矢作先生)

国公立大受験への意識付けとして、国語では中学1年生からセンター試験の現代文に取り組ませている。早い時期から難易度の高い問題を解かせることで知的好奇心を高め、同時に進路意識を醸成している。

予習・復習や課題は 最後までやり遂げさせる

中学校では、予習や課題、小テストなど、一つひとつの指導の徹底化も図った。例えば、英語では、予習を必須とし、取り組んでこなかった生徒は予習が終わるまで授業に参加させないようにした。英語科の芦澤健雄先生は次のように述べる。

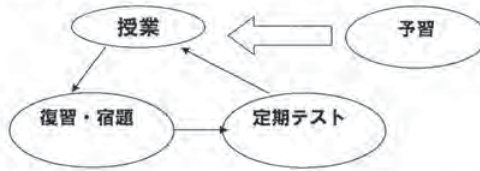
「生徒を学習に向かわせるにはまず意欲を喚起すべきだとよくいわれますが、私は順序

*プロフィールは2012年3月時点のものです

*1 Grade Point Average の略。各科目の成績を数値化して算出する、学生の単位当たりの成績評価値

成績を向上させるに当たって

「中学生になっていますか??」 小学校7年生ではありません・・・
 メイハチに入って高かった学習意欲が学校生活に慣れたこの時期に低下しています・・・
 ここで生活・学習習慣について見直しが必要です。「小学校7年生」ではなくて、「中学生」です。
 《中学校の学習サイクル》



上のように、「授業で学習したことを自宅で復習し、定期テストに臨む」というサイクルが必要です。そのために・・・

- (1) 自宅学習の開始時間を決める
 毎日の学習時間を固定することで、学習計画も立てやすくなり、一定の自宅学習時間が確保できます。
- (2) 学習時間の目標を設定する
 学習内容が難しくなっているので、自宅学習が重要です。家庭学習60分では足りません。90分以上の目標を設定しましょう。
- (3) 部活動と学習を両立させる
 部活動に参加し、積極的に取り組んでいます。しかし学習との両立に悩む生徒も多くなっています。休日の過ごし方の工夫など、学習と部活動の両立するための自分のペースを作りましょう!!

学習時間は成績に比例する

成績	学習時間
9段階	161.8時間
8段階	136.5時間
7段階	118時間
6段階	120.4時間
5段階	62.5時間

前期期末後から後期中間までの学習時間をみんなに計算してもらいました。今回も同じ事が言えますね。つまり、いかに学習時間を確保するかが成績の向上に繋がるのです。内容も難しくなっていますので、毎日90分の時間の確保が必須です。

中学1年生に家庭学習の指導として配布するプリント。データを基に、家庭学習時間と成績の関係を示し、学習量がいかに成績に反映するかを実感させる
 *学校資料をそのまま掲載

が逆だと思えます。中学・高校で習得しなければならぬ内容をしっかりと身に付けたところから、やりたいこと、知りたいことが出てくるのではないのでしょうか。ですから、基礎を徹底させるために、予習や課題提出は必須、やらないという選択肢はないことを生徒に強く意識付けるように心掛けています」

数学は復習が中心で、単元が終わるごとに演習問題のプリントを課す。もちろん提出は必須で、出すまで徹底的にチェックする。課題の量は多く、ある生徒が中学1年生の4～12月の課

題プリントを重ねて厚さを測ったところ15cmもあったという。また、数学も英語も、小テストの追試は合格するまで何度でも繰り返す。「課題を提出しない生徒は学校に残しても終わらせ、場合によっては保護者に連絡して注意を促し、必ず提出させています。私たちが少しでも指導を緩めたり諦めたりすれば、生徒はすぐにそれを察して手を抜こうとします。中学1年生の時から徹底的に指導することで、そうした学習が当たり前だと思わせることが大切です」(田中先生)

テンポの良い授業展開と繰り返しで定着を図る

学力向上策で重要になるのは、何といっても授業改善である。

「生徒の学力は今のままでよいのかという議論は、大学から生徒の学力向上への要望が来る前から英語科で話し合っていました。当時の生徒の英語力を見ると、少なくとも私た

定期考査で成績が下位だった生徒に対する補習も徹底的に行った。以前は、指名を受けた時点で自分は駄目だと思い込み、それだけでやる気を失う生徒もいた。今は、学力が付いたことを生徒自身が実感できるまで丁寧に指導するため、生徒も諦めずに意欲的に取り組むようになったという。たとえ補習に指名されたとしても、補習を受けて次のテストで良い結果が出れば、それが成功体験となって次のステップにつながっていく。そこから教師への信頼感も生まれ、学校全体の一体感が醸成されていくのである。

「例えば、私の授業は成績中位層の上の方にレベルを合わせているので、付いてこれない生徒が出てくることも想定しています。しかし、学校がきめ細かく支援することをあらかじめ伝えていたので、そうした生徒もまずは教師の言う通りに取り組んでみようという気持ちになるようです」(荻澤先生)

ちが中高生だった時の学力には達していませんでした。検定試験の合格、あるいは実用的な英会話の習得だけではなく、学校教育の使命として学問の基礎を体系的に身に付けさせる授業が必要だと感じました」(芦澤先生)

芦澤先生の英語の授業は、50分を3〜15分のパートに分けて進めているのが特徴だ。冒頭の10分で前時の復習、次の15分で基本本文の発音と解説、次に本文のリスニングと単語・熟語の解説というように、解説と活動をテンポ良く切り替えて、飽きない授業を心掛けている。

2つめの特徴は、重要な部分は繰り返し学べるよう、スパイラルに授業を組み立てていることだ。本文に触れた後、確認プリントに取り組み、次の授業の冒頭で小テストを行う。更に、週1回の小テストで同じ内容を出題し、合格するまで追試を繰り返す。何度も反復することで学習内容の定着を促していくのである。

「当初は授業展開の速さに戸惑っていた生徒も、自分なりに学習方法を工夫するようになりました。ただ、この方法で効果を上げるためには、毎年変わる生徒や教科書に合わせて、授業の組み立てや内容を変えていく必要があります。私たちも勉強し続けなければなりません。そうしたことも含めて、教師の学ぶ姿勢を見せること自体が、生徒の学びへの意欲を喚起すると考えます」(芦澤先生)

更に、中学校の英語科では、学年統一の指導

案を作り、全ての教師で共有しようという試みを始めた。同じ指導案で授業を行い、教師の指導力の差を埋め、学力向上を図ることが狙いだ。

学力調査の結果分析で課題を把握し、教師の競争意識を刺激

生徒の意識改革を進める一方、教師の意識改革も進めた。中学校で導入しているベネッセの「学力推移調査」(*2)の活用もその1つだ。

「外部模試なども、以前は組織として結果を検証していませんでした。今は、試験結果を分析し、報告会を開いて、学年ごとの成績を共有し、教科ごとの課題を明らかにして指導改善を促しています。他の学年の同時期の数値との比較を通して、良い意味での競争意識が芽生え、結果的に生徒の学力向上に結び付いていると感じます」(矢作先生)

教師の意識を高めるには、学年を引っ張る主任のリーダーシップも重要だ。中学1年生では、11年度に初めて学年主任となった田中先生が、年度当初に不転の決意を披歴して担任団に結束を呼び掛けた。

「先生方の足並みをそろえるには、最初が肝心です。『生活カード』や課題・追試の徹底など、担任の負担は小さくありませんが、学年主任としての私の決意を伝え、先生方に理解していただきました。それが学年の活気

にもつながっていると思います」(田中先生)

改革の成果は学力の伸びに表れている。例えば、中学2年生の学力推移調査の結果では、国語・数学・英語の3教科総合の平均偏差値が2年前と比べて約6ポイント上昇した。中でも、英語は約9ポイント上昇し、授業改善の成果が顕著に見られる。また、進路意識については、国公立大へも2年連続で5人が合格するなど、生徒の意識は徐々に外にも向けられつつある。こうした成果を受けて、当初は尻込みをしていた教師も積極的に指導変革にかかわるようになってきたのも大きな変化だ。

「学校現場は理想だけでは動きません。先生方の意識を変えるには、まず結果を出すことが大切です。何よりも生徒の学力が実際に向上したことが、他の教師を動かすことにつながるのだと思います」(芦澤先生)

今後の課題は、行事や部活動と勉強の両立をいかに図っていくかである。

「生徒の社会性や協調性を育む上で行事や部活動は欠かせません。しかし、近年は学力向上に傾倒するあまり行事は縮小傾向にあります。勉強と行事・部活動が両輪となることで学校に活気が生まれます。教師・生徒が良い緊張感を保ちながら、文武にバランスの取れた指導を追求することが、大学や社会で活躍できる人材の育成につながっていくのだと思います」(永田教頭)

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。

2011年9月号指導変革の軌跡「愛知県・私立春日丘中学・高校」など

▶▶▶ <http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け)



◎黒川農学校として1901年に開校。2010年に機械、電子、環境系の学科に再編した。08年から「黒高マイルール宣言」に基づく改革に着手。09年から3年間、宮城県教育委員会から産業人材育成重点化モデル事業の指定を受ける。エネルギー教育実践校に認定されるなど、環境教育にも力を入れる。

設立

1901(明治34)年

形態

全日制／普通科・機械科・電子工学科・環境技術科／共学

生徒数

1学年約240人

11年度入試合格実績(現浪計)

公立大は宮城大に1人合格。私立大は、東北学院大、東北工業大、東北生活文化大、石巻専修大などに延べ17人が合格。短大は4人、専門学校には40人が合格。就職は一般企業227人、公務員3人。

住所

〒981-3685
宮城県黒川郡大和町吉岡字東柴崎62

電話

022-345-2171

Web Site

<http://www.kurokawa.myswan.ne.jp/>

宮城県
黒川高校

学校改革

学び直しの徹底と データによる効果検証で 生徒・教師の意欲が向上

変革のステップ

背景

◎生徒指導上の課題が多く、生徒の進路意識も希薄で、就職実績が低迷。地域からの評価も低かった

STEP 1

実践

◎全校体制による生徒指導の徹底、学び直しの導入、データ活用による教師の意欲向上を図る

STEP 2

成果

◎生徒の荒れの収まりと共に学力が向上し、就職実績も好調に推移。指導改善への教師の意欲も高まる

STEP 3

**進路意識の低さや学力の不足が
就職活動の足を引っ張る**

宮城県黒川高校は、普通科、機械科、電子工学科、環境技術科を擁する専門系高校である。最寄り駅から車で約30分という立地もあり、全体の8割は地元の黒川郡の生徒で占められる。生徒は礼儀正しく、廊下や教室の掃除は行き届き、落ち着いたたたずまいを見せているが、5年程前までは生徒の荒れに悩む学校だった。生徒指導部長の長田晃明先生は、当時をこう振り返る。

「2008年度に赴任した時、生徒たちの様子に驚かされました。集会ではきちんと整列できず、服装は乱れ、髪を染めている生徒が目立ちました。地域からの評判は良くなり、先生方のパワーのほとんどは生徒指導に費やされていて、学力向上や進路意識の育成にまで手が回りませんでした」

学力や進路意識の課題は、就職状況にも影響していた。面接で高い評価を得たにもかかわらず、学科試験の得点が思わしくなく内定を逃す生徒や、待遇面だけを見て会社概要を詳しく調べずに就職を決め、入社後10日で辞めてしまった生徒など、学力の低さ、進路意識の希薄さから就職につまずく例が少なくなかった。進路指導部長の丸山泰史先生はこのように話す。

「生徒が事前に担任に相談していれば、失

敗を避けられた例もあつたと思います。それでも担任に相談しなかつたのは、生徒が学校を信頼していない証拠といえるでしょう。学校や教師への信頼感を育み、入学時から進路情報をしっかり伝え、生徒の進路意識を高める必要があると感じました」



倉光恭三 くらみつ・きょうぞう
宮城県黒川高校校長
教職歴7年。同校に赴任して4年目。「学校は生徒の可能性を開花させるために必要な意識・態度・知識・専門性を育む場である」



伊藤俊 いとう・しゅん
宮城県黒川高校教頭
教職歴28年。同校に赴任して2年目。「日本を担う人材を育てたい」



長田晃明 おさだ・てるあき
宮城県黒川高校
教職歴23年。同校に赴任して4年目。生徒指導部長。「さまざまな取り組みにより、生徒の『心』を育てていきたい」



岩手正浩 いわて・まさひろ
宮城県黒川高校
教職歴17年。同校に赴任して6年目。教務部長。「学ぶ楽しさ、知る楽しさを生徒に伝えていきたい」



丸山泰史 まるやま・たいし
宮城県黒川高校
教職歴16年。同校に赴任して9年目。進路指導部長。「正確な状況把握をし、そこですべきことは絶対にしていきたい」

「黒高マイスクール宣言」で学校のビジョンを明確化

08年度に民間企業出身の倉光恭三校長が赴任したことが、同校の転機となった。折しも、県の企業誘致により、自動車メーカーの系列会社などが近隣地域に進出し始めた頃だった。同校は従来の農業・土木系の学科を機械・電子・環境系に改編し、「ものづくり人材」の育成拠点として地域の人材ニーズに応える体制を整えた。

更に、生活態度と規範意識の改善を重点目標に据え、黒川高校の伝統と地域の要請との協調を大切にする姿勢を明確にし、それを「黒高マイスクール宣言」として発信した。倉光校長は、その狙いを次のように説明する。

「組織にとって大切なことは、共有ビジョン、貢献意欲、そして協調（コミュニケーション）の『3K』だと思います。先生方は貢献意欲が高く、協調して物事に取り組みむ力を持っていました。そこで、必要なのはビジョンの共有であると感じ、『黒高マイスクール宣言』として目指すべき学校像を明確にし、目標に向かって先生方の力を結集させていったのです」

「黒高マイスクール宣言」を実現するために、何よりも優先して取り組まなければならなかったのが生徒指導の強化だった。

「それまでの生徒指導は、担任や生徒指導

部だけが言い、学校全体の取り組みには至っていませんでした。今後は、教師が丸となって組織的に指導に当たること、当たり前のことであっても一つひとつの指導を徹底して行うことを確認しました。また、単に厳しく指導するだけでは、生徒の自発性を引き出し、学校への帰属意識を育んだりすることは出来ません。そのため、学校の荒れにより中止していた文化祭の再開や、生徒会活動の充実に力を注ぎました。問題行動に向かいがちだった生徒のパワーを学校活動へ向けられるよう、教師全員でサポートしていったのです」（長田先生）

また、生徒が地域の祭りに参加したり、小学校を訪ねたりする機会を利用して、子どもたちにもものづくりを教える機会を設けるなど、地域との関係づくりにも力を入れた。

徹底した生徒指導、課外活動の活性化によって、遅刻・欠席者数、転学・退学者数、特別指導の件数は激減していった。生活態度も落ち着き、授業や集会などで教師の話聞く態度も格段に良くなっていた。

学校設定科目「パワーアップ」で学習に向かう姿勢を涵養

進路意識の向上や、学びの意欲を喚起するための教科指導の改革も進めた。

*プロフィールは2012年3月時点のものです

進路にかかわる情報は、週1回、進路指導部が発行する進路通信「未来へ」で伝えた。働く意味、正社員とフリーターの違い、先輩の成功例・失敗例、仕事と学歴・学力の関係など、進路を考えるために必要な情報を時期に応じて提供し、進路意識の涵養に努めた(11年度以降は前年度のプリントを1・2年生用、3年生用の2冊にまとめて配布)。

基礎学力の定着に向けて、1年次に学校設定科目として「パワーアップ」を設けた。国語・数学でそれぞれ週1コマ、小・中学校段階の学習内容に取り組みというものだ。

授業はプリント学習を中心に進める。プリントは3枚構成で、1・2枚目は習得しておくべき必須の内容、3枚目は早く終わった生徒のための応用問題とした。国語は1枚目が漢字の書き取りで、最初の10分間で解答して自己採点を行い、間違えた問題の書き取りを10回行う。数学は、最初の10分で1枚目の四則演算に取り組み、間違えた問題は正解するまで解き直してから2枚目に取り組み。3枚目の応用問題は、国語では語源や対義語・類義語などを辞書を使って解く調べ学習をし、数学では1・2枚目より難しい文章問題を中心に学習する。

基礎学力の定着もさることながら、「パワーアップ」の一番の狙いは、生徒に学習態度をしっかり身に付けさせることにあると、丸山先生は強調する。

「生徒がきちんと席につき、落ち着いて授業を受ける環境づくりが喫緊の課題でした。社会で最低限必要となる国語力や計算能力を身に付けることも重要ですが、本校の生徒にとって最も必要なのは出来る喜びを味わわせることです。成功体験を積み重ね、やれば出来るという意識を育て、前向きに授業に取り組む意欲を引き出すことに主眼を置きました」

「パワーアップ」の授業を始める際には、制服をきちんと着てシャツの襟を正すよう指導する。忘れ物をした場合は、反省文を提出するまで次の課題に進ませない。教科指導と生徒指導を一体的に行い、学習するのにふさわしい態度を身に付けさせるのだ。

12年度からは、生徒の生活態度が落ち着き、学力が上がってきた現状を踏まえ、授業時数を国数合わせて週1コマに縮小し、就職試験を見据えた対策問題の演習も盛り込む予定だ。

客観的なデータから効果を検証し 自ら行動する教師集団となる

これらの取り組みの効果検証は、各分掌で日々蓄積しているデータを基に行っている。生徒指導面では遅刻・欠席者数、退学・転学者数、特別指導の件数の推移などで把握し、教科指導面では定期考査の成績、ベネッセの「基礎力診断テスト」(*)、Fineシステムでの検証、

英検や漢検の受検者数で、地域からの評価では学校の入試倍率やオープンスクールへの参加者数などと、あらゆるデータを駆使して学校の状況を多面的に把握している。

教科指導の改善で活用しているのは、生徒からの授業評価と「基礎力診断テスト」のデータだ。以前は、入学後の学力の推移は右肩下がりだったが、今は、入学時の学力が同程度の学校と比較して生徒を伸ばすことが出来ている。教務部長の岩手正浩先生は、こうしたデータによって、教師は自身の指導改善の成果を実感できるようになったと述べる。

「教師は、少なからず自分の授業に対して不安を持っています。特に教科指導が成立しにくい状況にあった本校では、目の前にいる生徒の学力をどう伸ばしていけばよいか、手探りの状態でした。授業評価で指導を改善し、基礎力診断テストで客観的な把握をし、その成果を実感することが出来ました」

また、10年度の学校評価アンケートでは、授業に対する生徒の満足度が低かったにもかかわらず、教師は「授業を工夫している」と回答する率が高かった。そのギャップを埋めることが課題の1つになっていたが、11年度は生徒の満足度が上がり、一方で、教師は「もっと改善が必要」と回答する割合が増えたという。

「教師の発問にしっかりと答えられる生徒が増えるなど、生徒が変化し、授業での学びが

*ベネッセの「進路マップ」の教材の1つで、幅広い学力層に対応する出題内容となっている。学力を測るだけでなく、テスト実施を契機に進路を考えさせたり、学習習慣の定着状況について把握したりすることも可能

楽しいと思えるようになってきたのだと思います。そして、そうした生徒の姿が教師を刺激し、分かりやすい授業、生徒の実状に合った授業を追求していかうとする意欲を高めているのだと思います」(石手先生)

教務部が呼び掛ける前に、学年団が率先して週末課題の導入を提案したのも大きな変化だった。今、生徒に何が必要かを考え、それに向かって自ら行動する教師集団に生まれ変わりがつつあるのだ。

教師の意欲を高めることが生徒の満足度を向上させる

データを通して教師が改革の成果を実感し、達成感を得ていることは、改革の推進力になっている。伊藤俊教頭は次のように述べる。

「学校として成果を上げようとする時、生徒や保護者の満足度に目が向いてしまい、教師の満足度はなおざりになりがちです。しかし、管理職として考えなければならないのは、先生方の満足度も高めることです。自分たちの努力が確実に生徒の成長につながっていることを、データを通して実感してもらおうことが、教師の指導改善への意欲を高め、ひいては生徒の学力や進路実績の向上をもたらすのです」

伊藤教頭は教師や保護者、地域の人々にヒア

リングをし、課外活動における生徒の様子や授業態度、テスト・検定などへの取り組み方など、生徒の変化を抽出し一覧にしている(図)。定量データには表れにくい生徒の定性的な変化を教師や地域の方々などの声から捉え、立体的に生徒の現状を把握することで、指導の進捗を確認し、教師の達成感を高めるのである。

改革から4年が経ち、荒れた学校の雰囲気は

図 伊藤教頭がまとめた生徒の変化(抜粋)

現象	場面など	変容の視点Ⅰ(教師)	変容の視点Ⅱ(地域・保護者)
集団行動	集会	3、4年前までは全校集会時の整列に時間が掛かっていた。集会中も列が乱れがちで私語も多く、指導を必要とする態度の生徒が見られた。昨年、一昨年頃から改善が見られ、今年度は私語をする者も見られず、整然とした態度で臨んでいる。	(同窓会長)講演会の聴講態度は以前に比べ格段に良くなっている。下を向いている生徒が少なくなっている。もちろん私語はない。
	修学旅行	空港などでの集合時、引率教師や添乗員の話聞く際に、私語や下を向く生徒がほとんど見られず、校外活動でも規律の取れた集団行動が出来るようになった。	(添乗員)見学地や空港での集合も時間が掛からず整然と整列している。指示事項も静かに聞いてもらえる。立派である。
学習姿勢	授業	授業中に校舎内をウロウロする生徒が全くいなくなった。	
	考査	定期考査前に教室で居残りをして試験勉強をする生徒が見られるようになった。2、3年前は見られなかった。	

*学校資料を基に編集部で作成

なくなつた。生徒の生活態度は見違えるようになり、高校入試の志願倍率、入学者の学力も確実に伸びている。卒業時の実績も好調で、11年度卒業生の就職内定率は95%だった。安心して学べる学校への変貌を背景に、現在は同校は更なるステップアップを遂げようとしている。「黒高マイルスクール宣言」の方針はそのままに、今後は社会に認められる「黒高ブランド」の構築を目指していくという。

国公立大の合格者を増やし、「進学も出来る学校」を目指すという目標を掲げたのもその一環だ。そのため、普通科では12年度からセンター試験にも対応できるカリキュラム編成とした。大幅な改編に対して教師から反対意見が出なかったのも、客観的なデータで生徒の状況を把握し、指導の手応えを感じているからだ。そして何よりも、教師が学校を変えていく喜びややりがいを実感しているからに他ならない。

「管理職はビジョンを示し道筋を付けただけ。一人ひとりの教師が、本校の置かれた環境や役割・使命を自覚し、それに基づいてなすべきことを考え、実行したからこそ学校の改革は進みました。大切なのは1人のスーパーティーチャーが100をこなすのではなく、教師100人が1つずつ出来ることを実行すること。一人ひとりの頑張り相乗効果を生みだし、学校を大きく変えていくのです」(倉光校長)

今回のテーマに関連する過去の記事はBenesse教育研究開発センターのウェブサイトでご覧いただけます。

2009年9月号指導変革の軌跡「千葉県立姉崎高校」など

▶▶▶ <http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け)

30代教師の転

起

きる！

失敗やつまずきを転機に、授業力を高める！



「いかに生徒をやる気にさせるか」
思考させ、学ぶ意欲を引き出す

岐阜県立岐阜北高校

大西

護先生

38歳

私が乗り越えてきたもの

生徒に「試された」私

論理を組み立てて正解を導く数学の面白さを伝えたい。そんな思いを抱き、教師の道を選びました。初任の農業高校での最初の授業は衝撃的でした。緊張しながら教壇に立つと、たくさんのボールが自分めがけて飛んできたのです。そんな様子を見て私は、「生徒に試されている」と感じました。ここで

ひるんでは、生徒に数学の面白さを伝えることなど到底できない。そんな思いから、積極的に生徒とかかわろうと机間巡視を行い、どの生徒にも声を掛けていきました。

解説にも生徒とのやり取りを増や

いかに生徒とかかわるか

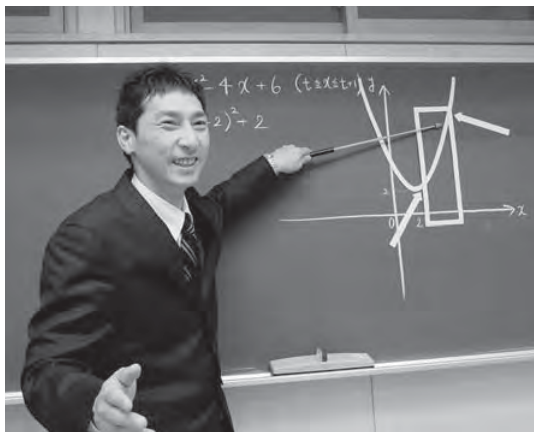
し、私があえて計算を間違え、生徒に指摘されると大げさにリアクションをするといったパフォーマンスを取り入れました。やがて、全員の目がこちらを向き、「自分たちに真剣に向き合う教師なら受け入れる」という意思を感じるようになったのです。

2校目の定時制高校では、多くの生徒の表情に生活の悩みや不安が表れていました。授業だけでなく、何事に対しても無気力さが見て取れたのです。彼らと信頼関係を築くことが急務だと

感じ、授業中はもちろん、授業以外の時間にも「最近、頑張っているな」などと声を掛け続けました。「先生が自分に関心を持っている」と生徒が感じてくれたからでしょう。授業への反応が少しずつ変わっていきました。授業を興味深そうに聞いたり、私の冗談に笑ったりするようになったのです。

定時制高校での指導に手応えを感じ始めた頃、私は教育委員会の交流事業に手を挙げました。他県でもっと自分の教育観を広げたいと思ったからです。赴任先は鹿児島県の進学校に決まりました。私は、難関大を目指す生徒に数学の魅力伝えたいと意気込みました。ところが、進学校の授業進度は私の予想をはるかに超えていたのです……。

生徒に寄り添い、学びに向かわせる指導



おおにし・まもる ◎教職歴14年。同校に赴任して4年目。担当教科は数学。1年生担任。
岐阜県立岐阜北高校 ◎全日制／普通科／共学。
11年度入試では、国公立大は、北海道大、筑波大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大などに計199人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ956人が合格。

そして、これからも挑み続ける目標

効率的な解法を伝える指導

進学校の教師として、少なくとも受験に対応できるだけの学力は付けさせなければならぬ。そう思った私は全国の難関大の入試問題を解き、受験数学の全体像を必死で理解していきました。受験でどのような力が求められるかを教師が把握してこそ、限られた授業時間を有効に使えると感じたからです。力を付けられるようにプリントや教材を作り、生徒に与えていきました。しかしその指導は、必ずしも志望実現には結び付きませんでした。センター試験の自己採点を終えた生徒が悔しい涙を流すのを目にした時、自身の指導

の至らなさを痛感しました。数学に課題があると思っていなかった生徒の中にも数学で得点が伸びなかった者があり、自分の認識の甘さを感じました。これまでの定期テストの答案を見直すと、課題が2つ見えてきました。1つは、計算を確かめる丁寧さを育てていなかったこと。もう1つは、効率的な解法の習得に力を入れる余り、思考力を要する応用問題に正解するだけの力を鍛えられていなかったことです。進学校に求められる指導とは何か、真に気付いた思いでした。

生徒に考えさせる指導を求めて

進学校の生徒の力を伸ばすには、計

算の緻密さを養いつつ生徒に考えさせる指導が必要だ。鹿児島で得た教訓を胸に、教職12年目の35歳の時、岐阜県岐阜北高校に赴任したのである。

私は進学校に適した指導を求め、先輩の先生方の授業を見学しました。グループでの問題演習や学び合いをさせる先生、未習事項をあえて生徒に問う先生など、さまざまな指導を参考に自分の指導を工夫しました。正確な計算力を付けるため、生徒の答案から計算の仕方を分析し、つまずきやすいと感じたところを重点的に授業で解説しました。また、発問や問題演習の機会を増やし、知識を活用して考える時間に充てました。「教師のかかわり方次第

「考えているから待って」と言われる授業

で生徒の学習意欲は高まる」という進路多様校での学びを生かしたのです。徐々に、生徒の表情に考える楽しさが表れてきました。私が答えを言おうとすると、「今、考えているから待って！」と生徒に言われることもあるほどです。最近ようやく、進学校の生徒を引き上げる指導が出来つつあると感じています。2011年度は自主学習の第一歩として、1年生に家庭学習用プリントを配布しています。教師として基礎はしっかり固めた上で、「いずれは自ら学びに向かってほしい」という思いはますます強まりました。10のうち3を教師が教え、残りの7は自ら学び取る生徒を育てること。この理想を今後も追求したいと思っています。

大西先生 の 授業実践

Q&A



Q 生徒自身に考えさせる指導をするために、授業でどのような工夫をしていますか？

A 学び合いを応用したペアワークを取り入れています。毎回の授業で問題演習をする際、自力で問題に取り組みさせてから、ペアで解説し合います。問題が解けた生徒は、他者に説明することでより理解が深まり、問題が解けなかった生徒は、相手が友だちなら、些細な疑問でも納得するまで質問できると考えています。

誰とペアになるかもポイントです。生徒には、「お互いの力を伸ばせる相手とペアになりなさい」と伝えています。自分の弱点を踏まえて相手を探すことも、考えさせる指導の1つなのです。

Q 生徒の層別の指導でどのような工夫をしていますか？

A 学習の定着度に応じて指導を変えることで、生徒の学習意欲を引き出そうとしています。まず全生徒を対象に、家庭学習用の「日々プリント」を毎日配布しています。これはA4判で、表に教科書の例題と同程度の難度の問題2題、裏にその解答・解説を載せています。数学の授業がない日もプリントを解くことで、学習習慣の定着を図っています。

成績上位層に対しては、学校が配布するチャート式問題集を解くよう指導しています。下位層には、放課後に個別指導や補習を行っています。授業を聞いていれば確実に解けるような教材を使用し、解ける楽しさを実感させ、数学に対する関心を高めようという狙いです。

メッセージをお寄せください

◎更なる授業力の向上を目指す大西謹先生へメッセージをお願いします。同じ課題を抱えている同世代の先生の共感の言葉、独自の授業スタイルを確立された先輩からの応援やアドバイスなどを自由にお寄せください。編集部より、大西先生へお届けします。

下記のe-mailアドレスに
メッセージを送信ください

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

生徒の「よりどころ」を生かし 2年生を学校の中核へと育てる指導

時期の特徴

新しい年度が始まり、教師も生徒も慌ただしい状況。2年生は部活動の中心になり、多くの生徒が学習に対して質・量ともに十分には取り組めない状況に陥りがちだ。

指導のポイント

生徒自身によりどころや得意を自覚させる内発的な動機付けを行うことで、「最低限これだけは取り組む」という学習目標を見付けさせ、実行させる。

※このコーナーは、高校の先生方との検討会を経て制作しております。

目的別データ活用

1 2年生の位置付けを目線合わせする

……→ 図1

◎部活動、学校行事などで「2年生は学校の中核である」ということを確認した上で、多忙なこの一年をどう過ごさせるのか目線合わせが必要だ。「勉強しなさい」と一方的に言うだけでは生徒はなかなか動かないし、この時期から課題などを過剰に与え、詰め込みすぎると、3年生になってからの「伸びしろ」が生まれにくい。部活動引退後に学力の大きな上昇曲線を描くような集団をつくるため、「たるみさせない」状態を目指したい。そのために、2年生の各時期に最低限押さえておくべきテーマを図1のようにまとめ、学年で共有する。

2 2年生初めの面談で生徒の「よりどころ」を把握し、生かす

……→ 図2

◎クラス替え後の最初の面談の目標は、教師と生徒の相互理解だ。2年生の1年間をたるみさせないために、面談を通して見付けたいのが「これだけは頑張れる」という生徒のよりどころだ。多忙な2年生とはいえ、「家庭学習時間ゼロ」という状態は回避させるべき。忙しい中でも勉強に向かう経験を積ませることが重要だ。そこで「疲れていてもこの教科なら少しは勉強できる」というよりどころとなる教科を自覚させる。時間がなくて家庭学習が出来なくても仕方がないと易きに流れず、少しでもやっておこうと、もがくことが大切なのだと言っても伝えない。

対教師へのデータ

生徒の多忙さを理解し、「伸びる集団」をつくる

データを用いた指導の流れ

STEP 1

◎2年生0学期の取り組みを行っている学校は増えてきた。0学期指導で高まった意識を継続させるよう、「生徒をたるみさせない」指導を共有する

STEP 2

◎3年生で「伸びる集団」をつくるためには、どのような1年間を過ごさせるべきか、学年団で話し合い、時期ごとの指導に落とし込む(図1)

STEP 3

◎2年生最初の面談の前に、スタディーサポートの結果や図2で生徒のよりどころを見付けておく。「自分のことをよく分かってきている」という信頼感を抱かせる

STEP 4

◎新学年の生活が落ち着く5月の連休明け頃に、各生徒に面談内容を思い出させるような声掛けをし、生徒の意欲を引き上げる

図1 伸びる集団をつくるための2年生での目線合わせシート

時期	行事	指導ポイント
4月 5月	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 中間テスト 面談 連休 高校総体予選 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の性格、学力、志望などを把握する 予習→授業→復習のサイクルの徹底を図る。1年生の指導の再徹底! スタディーサポートを活用し、学習スタイル改善の具体的なアドバイスを行う
6月	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会 進研模試 体育祭 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生講話などを利用した学部・学科への理解を深める 生徒に現状の学力を把握させ、志望校とのギャップを感じさせる ギャップを克服するための具体的な学習法を伝え、実践させる 学校を中心として充実した生活を送っているか改めて確認する
7月	<ul style="list-style-type: none"> 期末テスト 終業式 進研模試 三者面談 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着度をチェックし、それを踏まえた夏休みの学習計画を立てさせる オープンキャンパス参加に向けて、大学比較の観点を理解させる
8月	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み 補習・講習 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの学習計画の達成状況を確認し、必要に応じて修正させる
9月	<ul style="list-style-type: none"> 始業式 志望調査書提出 文化祭 	<ul style="list-style-type: none"> 9月からのリスタートを諦めさせないために声掛けを行う 地歴・公民、理科を含めた得意科目を伸長するよう指導する 国数英の家庭学習状況の確認と、より有効な学習のための支援を行う

図2 よりどころを見付けさせるための面談シート

組 番号 _____ 名前 _____

●2年生の目標は?
(文化祭の実行委員になつて活躍する)

●好きな教科は?(とても疲れている時に、1時間勉強しなければならないとしたら、どの教科を選ぶ?)
(数学)

●得意な教科は?(最近の模試や定期テストで、自分の中で一番成績が良かった教科は?)
(国語)

●学校行事で一番楽しみにしていることや、部活動でどんなことを頑張りたいと思っているか教えてください
(文化祭)

●2年生ではいろいろな体験を通して視野を広げることも大切です。2年生のうちにこんなことを経験してみたいということはありませんか?
(夏休みのオープンキャンパスはできるだけたくさん参加したい)



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> →HOME>情報誌ライブラリ(高校向け)>生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

人間的に一番成長する時期に教師がもがいた経験を伝える

活躍の機会が広がる2年生は、生徒にとって人間的に成長する時期だ。そうした時期だからこそ、「この1年間、多様な体験を積むことが大学入試やその後の人生に生きていく」ということを教師は自身の体験から伝えていきたい。今、多忙の中でもがいていることは、必ず意味のあることなのだとして生徒に伝えたい。

学習時間が減る中でも、学校には目を向けさせ続ける

学習時間が減っていても、部活動や行事で忙しい日々をおくることは、人間的な成長につながるという意味で評価できる。一方で、ただ学習時間が減るだけではなく、学校で過ごす時間自体が減り、生活の中心が学校ではなくなっている生徒は見逃ごせない。どんな時間を学校外に求めているのか、なぜ学校から気持ちが離れているのか、面談で確認したい。

5月の連休中の自学自習が2年生としての試金石に

運動部に所属している2年生の中には、5月の連休中は毎日練習という者もいる。授業がなく、日々の予習復習の必要もなくなる中で、それでも毎日、少しの時間でも机に向かうことが出来るかどうか、生徒のその後の成長に大きく影響する。連休に入る前に面談やHRで、更には各教科の授業の中で「たるんでも、たるみきらない」ように指導していきたい。

目的別データ活用

1 担当外の教科の学習法を質問させ教師がもがいた体験から学ぶ

……→ 図3

◎教師は自分の担当教科は高校時代から得意であった場合が多く、苦手意識を持った生徒に心から共感することは簡単ではない。そこで、生徒にはあえて「数学の先生に英語の学習法を聞くというように、担当教科外の先生に相談してみよう」と呼び掛けてみる。4月の時点で学年団などに高校時代の苦手教科について聞き取りし、一覧にして生徒に配布する(図3)。苦手科目とどのように向き合ったか、教師自身の体験を踏まえてアドバイスすれば、生徒を苦手科目に対して前向きにさせるきっかけとなる。教科を超えて教師の力を結集し、生徒を学習に対して前向きにしたい。

2 生徒に応じた先輩データの活用で、「挽回可能」だと伝えていく

……→ 図4

◎2年生で部活動の中心となり、生徒はますます多忙化する。そんな状況の中で、「このままで大丈夫だろうか」と悩んでいる生徒は少なくない。担任が学校の中心となって活躍することを評価しても、学習への自信を失ってしまう生徒も始まる。そこで「君たちの先輩も通ってきた道なのだ」「たるみきらずに、無理し過ぎずに、これだけはやるという目標を決めよう」と具体例を示しながら、生徒のモチベーションを高めたい。各生徒の状況に合致した先輩データの活用で、多忙な高校2年生の毎日を自信を持って過ごせるよう生徒を支援したい。

対生徒へのデータ

学年団の教師や先輩生徒の体験を活用し、もがき続ける2年生を育てる

データ活用の流れ

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4
◎生徒が2年生になって抱えている不安や苦手だと感じている教科科目を面談で把握する	◎可能であれば学校全体の教師(少なくとも学年団の教師は全員)が協力し、高校の時の苦手科目を洗い出し、図3を完成させる	◎図3を生徒に配布し、生徒に「この教科が苦手ならば、この先生に話を聞きに行ったらどうだ?」など声掛けを行う	◎面談で把握した生徒の悩みに応じて、図4に掲載されているような先輩データを示していく

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも併せてご活用ください! 右のウェブサイトをご覧ください。

- 2009年12月号「2年生0学期」を見通した1年生2月までの学習習慣の定着」
- 2009年6月号「2年生夏の進路意識向上と生活習慣の確立」
- 2010年12月号「目標とのギャップを埋める2年生0学期への意識付け」

Benesse® 教育研究開発センター

<http://benesse.jp/berd/>

生きたデータの徹底活用 クリック!

HOME→情報誌ライブラリ(高校向け)→
生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

加工可能な資料が
ダウンロードできます!

生徒指導・
進路指導ツール集

ウェブサイトから

ダウンロード!

図3 苦手克服のための教師プロフィールシート

名前	担当教科	学年など	高校時代に 苦手だった科目	どんなふうに勉強したか	結果
●●先生	数 学	2年3組担任	英 語	日本語訳が出ている短編小説のペーパーバック(中学生向け)を1冊買いました。出来るだけ辞書を引かないで、声に出して最後まで読んでいきました。その後、気になった表現を辞書を引いて読み直しました。	成績はすぐには上がりませんが、知っている単語が増え、英語ならではの文章構成にも慣れて、英語の授業が楽しくなりました。成績も少しだけ(?)上がりましたよ。(詳細データを知りたい人は、数学科室までどうぞ)
■■先生	保健体育	進路指導部	英 語	英語の文法の問題集(薄いもの)を買って、例文と問題を覚えるくらい繰り返ししました。仮定法や時制など文法構造が分からなくてもひたすら繰り返ししました。	文法の中で確実に得点できる分野が少しずつ増えて、次第に勉強が苦にならなくなりました。2年生の時300人中280番だった成績が、3年生2学期には30番台まで上がりました。
▲▲先生	理 科	2年1組担任	数 学	本当に苦手だったので毎日勉強する気がなかったんです。でも、数学から逃げたままでは教師になれないと思い、日曜日の午前中3時間だけ決めて集中し、教科書の例題と基礎問題集を解きました。	数学への苦手意識は結局克服できませんでした。が、センター試験では6割くらい得点できました。

図4 先輩データから見る2年生の悩み克服シート

	部活動	2年生の頃の悩み	どうやって克服したか	ポイント
A先輩	サッカー部	練習で毎日ぐたぐた。家まで1時間かけて帰った頃には疲れもピークに。眠くて1時間も勉強できない状態でこのままいいのかと不安になった	運動部に入っている友だちに聞くと、朝早く学校に行って勉強したり、電車の中での時間を活用したりしていることが分かったので、自分も試してみた。部活動後、疲れきって机に向かうよりも効率的に勉強が出来た	ちょっとした「スキマ時間」を使う
B先輩	なし	これといって理由はないが、2年生になってからなんとなく勉強へのやる気がなくなりました。家に帰ってもテレビやゲームの時間だけが増えた	先生に相談すると「学校で勉強してから帰ってはどうか」と言われた。自習室に寄ってみると、同じように家では勉強が出来ないからと残っている友だちがいたので、一緒に頑張ることが出来た	学校に残って仲間と勉強する
C先輩	水泳部	文化祭の実行委員と部活動の練習が重なって、7月から10月までは本当に忙しくなりました。勉強する時間が一気に減ってしまってすごく不安になった	毎日の勉強時間が減った分、日曜日にまとめてやろうと思った。特に英語と数学の予習に時間を割いた	1週間単位で勉強時間を確保する



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、小誌ウェブサイトからダウンロードできます。
<http://benesse.jp/berd/> → HOME > 情報誌ライブラリ(高校向け) > 生徒指導・進路指導ツール集

現場からのアドバイス〈プラスαの指導〉

連休明けをめぐり
学習法を見付けさせる

2年生になっても「この教科の学習の仕方が分からない」と悩む生徒は少なからずいる。そうした生徒には、まずは自分で取り組み、自身に合った学習方法を見付けさせることが必要だ。面談や日々の声掛けの中で学習への取り組み状況を聞きながら、5月の連休明けをめぐり学習スタイルの確立を目指す。2年生の1年間をたのみさせないためにも、自分なりのスタイルを探させたい。

1週間単位で
目標を立てさせる

運動部に参加する生徒の中には、試合前で忙しくて「毎日○時間の家庭学習」といった目標を達成できない生徒もいるだろう。そのような生徒に対しては、1日ごとの学習時間にこだわらずに「1週間で○時間の家庭学習」と週単位でスケジュールを管理させる。「週末などを使って、目標の学習時間に近づけばよい」と考えさせるようにすると生徒も取り組みやすい。

生徒の2年生での変化を
保護者に伝える

2年生になると生徒の保護者に対する態度も変わってくる。1年生の頃は学校での出来事を詳しく話していたのに、2年生になるとあまり話さなくなり、不安に思う保護者も出てくるだろう。2年生が学校の中核として活躍していること、生徒が行事や部活動などで多忙になりながらも、もがき成長していることなどを伝え、理解を促していきたい。

細胞シート工学を基盤とする 再生医療により生命の謎に迫る

東京女子医科大 先端生命医科学研究所 大和雅之研究室

再生医療は、事故や病気によって損なわれた体の細胞や組織の機能回復を目的とした医療技術だ。対症療法中心の薬物治療、切除中心の外科的治療の限界を超えた次世代医療として期待が寄せられている。東京女子医科大では、世界に先駆けて独自に開発した「細胞シート」を軸に、再生医療の新たな地平を切り開いている。細胞シート開発の責任者にして、グローバル COE「再生医療本格化のための集学的教育研究拠点」の拠点リーダーを務める大和雅之教授に再生医療の現状と展望を聞いた。

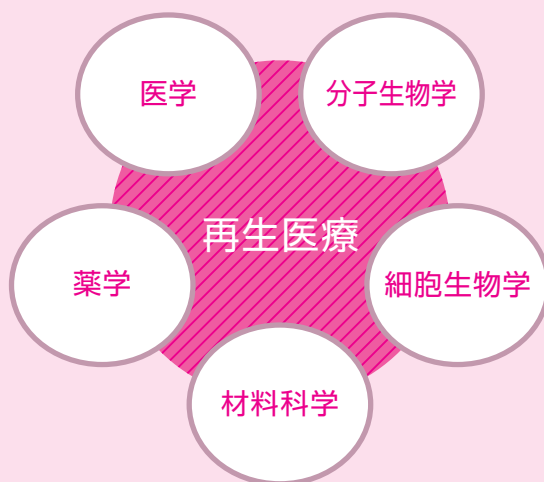
フローチャートで分かる大和研究室

大学院生の 主な出身分野

理学
工学
医学
薬学
など

◎理学、工学、医学、薬学、医療倫理など、医工連携・文理融合と幅広い学問分野の出身者から成る。中国、韓国、アメリカ、オランダ、イタリア、ポルトガル、スウェーデンなど海外の研究者が在籍することも多い。

研究にかかわる 学問分野と研究内容



◎再生医療は、分子生物学、細胞生物学を基盤として、広く医学・薬学、理工学などにまたがる複合分野だ。特に、大和教授のように各分野の専門家を結び付けるコーディネーター的人材には、生物学に関する深い専門性と共に、医学から理工学にまたがる幅広い素養や、異なる文化を受け入れる柔軟性が求められる。

研究成果と 社会のかかわり

病気の治療
人材育成
政策提言
ベンチャー企業
など

◎研究の最大の目的は、難病の根本治療だ。また、医学や理工学の素養を持ち、医工連携・産学連携を推進できる人材の育成、厚生労働省のガイドラインの策定、再生医療にかかわるベンチャー企業などに貢献している。

人とのつながりこそが新技術を生む原動力

組織工学・再生医療が求める学生像

コミュニケーション能力の高い人

さまざまな分野に興味を持つ好奇心旺盛な人

患者の立場に立って考えられる人

再生医療は、医学から理工学まで幅広い分野の専門家が協力し、発展させています。バックボーンの異なる専門家と円滑に共同研究を進めるためには、異なる文化を受け入れ理解する幅広い知識やコミュニケーション能力が必要です。私は学部時代に教養学部で広く理工学の知識を習得し、大学院修了後は長らく薬学部や医学部に勤務しました。グローバルCOEの拠点リーダーとなり、異分野の研究者をつなぐコーディネーターを務めることが出来ているのは、若い頃のさまざまな経験が生きているからでしょう。

更に大切なのは、医師や患者との信頼関係です。細胞シートのような新しい技術を開発しても、医師の協力がなければ実用化は望めません。また、患者と揺るぎない信頼関係が築かれているからこそ、前例のない手術にも同意してもらえます。異分野の研究者や医師、患者との心をつながりが、新しい医療をつくっていく原動力なのです。

高校生へのメッセージ 海外の研究者と話をする時など、高校で学んだ英語が役立つ場面は多々あります。そうした時、つくづく高校時代の経験が現在のコミュニケーション力の養分になっていると感じます。その人のポテンシャルは、高校・大学時代にある程度つくられると、私は思います。充実した高校生活を送って、しっかりと養分を吸収し、才能を開花させてください。



大和雅之 教授

やまもと・まさゆき 東京女子医科大学先端生命医科学研究所教授。グローバルCOEプログラム拠点リーダー。東京大大学院理学系研究科博士課程修了。日本大薬学部助手、東京女子医科大学先端生命医科学研究所准教授などを経て現職。主な受賞歴に平成21年度文部科学大臣表彰科学技術賞、2010年日本バイオマテリアル学会賞など。主な著書に「おしゃべりな細胞たち」(講談社)などがある。

研究を志したきっかけ

偶然出会った コラーゲンの研究が 再生医療への第一歩

私は幼少時代から生き物が好きで、近所の園芸科のある高校でカマキリやカニなどを捕まえて遊んでいました。ただ、大学時代は、生物学を学びたいと深く考えていたわけではありません。大学3年生の時に進んだ学科は教養学部基礎科学科で、数学、物理、化学、生物を広く学べる学科でした。専門を絞り込まない道を選んだわけですが、理系科目を幅広く学んだことは、後々再生医療に携わる上で役立ちました。

転機となったのは、大学院時代、仲の良かった友人と共に入った研究室で取り組んだコラーゲンの研究でした。当時、生化学の分野ではDNAや細胞情報伝達など細胞の内側の研究が盛んで、細胞の外側で真皮や骨を作るコラーゲンはほとんど注目されていませんでした。しかし、皆がしている流行の研究は、往々にしてその時が成果が得られるピークです。そこで、日本でまだ研究されていない分野ということで着目したの

研究概要

再生医療の 未来を切り開く 細胞シート工学

私が東京女子医科大学で研究に着手した時、再生医療は生命科学の専門家にもほとんど知られていないマイナーな学問でした。実は動物の細胞の培養が始まったのは意外に早く20世紀初頭で、1980年代までにはかなり進展していました。次に研究の対象となったのが臓器の部分構造である「組織」の再生で、これを組織工学といいます。私たちは、この組織工学を土台に安全で治療効果の高い再生医療の確立を目指しています。

その中心となる技術が、世界に先駆けて開発した「細胞シート」です。細胞シートとは、細胞を培養して作るばんそうこうのようなもので、患部に貼ることで傷付いたり失われたりした細胞を還元・回復させるシート状の組織です。

が、当時アメリカで行われていた、コラーゲンから人工的に血管や真皮などを作る研究です。このコラーゲンの研究が、現在本拠点で行っている再生医療の第一歩になりました。

用語解説

① **コラーゲン**
皮膚や骨、じん帯などを作るたんぱく質の1つで、細胞と細胞をつなぐ細胞外マトリックスを構成する主要成分。

② **組織工学**
細胞を培養して組織を再生する技術。小さな骨や軟骨の再生は成功しているが、細胞成分が大部分を占める肝臓や心筋組織の再生は難しいとされる。細胞シート工学はこの欠点を補い、肝臓や心臓、腎臓など複雑な機能を持つ臓器の再生を目指している。

③ **胎児外科**
超音波検査や遺伝子診断などで判明した胎児の疾患を、出産前に治療する方法。ただし、早産となったり未熟児で生まれたりする可能性もあり、解決すべき課題は多いとされる。

④ **分子生物学**
生命現象を分子レベルで理解しようとする生物学の一分野。たんぱく質、糖質、脂質などの生体分子を対象として、遺伝子情報の解読や遺伝子治療法の開発などを行う。

例えば、食道がんの手術をする時、がんと一緒に周辺の組織まで切除することになるため、術後に大きな傷跡が残ります。今までは自然に治るまで待つしかなく、狭さくを起しただが、患部に細胞シートを貼ればそうしたりスクは少なくなりです。

また、従来の再生医療では、人の心臓に細胞を移植する時、何十か所にも注射をしていました。注射針はとても細いので人体への影響は小さいと思われがちですが、実際にはナイフで筋肉を切り裂いていくようなもので、心臓に傷が付いて不整脈などの合併症が起きやすくなります。

ところが、細胞シートを使えば心臓を傷付けることがないため、ロスなく大量に細胞を移植できるのです。

研究の展望 「作る」ことで 生命の理解へ アプローチ

細胞シートを作るには、同じ患者の身体の別の部分から、例えば、食道がんであれば口腔から細胞を採取します。そして、特殊な高分子を厚さ20〜30ナノメートルにコートした

培養皿の上に細胞をまくと、細胞分裂を続けながら増殖し、16日ほどで出来上がります。ばんそうこうは時間が経つと効果が薄くなり貼り替える必要がありますが、細胞シートはそれ自体が生きた細胞なので、その必要はありません。

研究は現在、臨床データを収集する段階までできました。細胞シートの対象は、食道や心臓の他、角膜、歯周組織、中耳にまで広がっています。今後は、十数年の間に肝臓がんや胎児外科への応用を実現していきたいと考えています。

胎児については、羊水検査や血液検査などによって、妊娠中に胎児の疾患の有無や状態を診断できるようになりました。しかし、たとえ疾患が見付かったとしても、妊娠中は適切な治療が行えないことが多く、出産後の治療に委ねるしかないという現状があります。例えば、二分脊椎症という、脊椎骨が先天的に形成不全となり、脊髄が脊椎の外に出て損傷するために、さまざまな神経障害を引き起こす病気があります。出産後に外科的治療が施されますが、合併症を引き起こすこともあり、治

療が難しい病気の1つです。胎児の段階で治療を行うためにも、再生医療を組み合わせたことが有効だと考えています。

再生医療の魅力は、細胞シートのように生命そのものをつくりながら、生命の神秘にアプローチしていくところにあると思います。機械に例えるならば、ラジオや時計を分解することで構造を理解しようとするよりも、それらを組み立てられることの方がより対象を理解したといえるのではないのでしょうか。

一時期、生命現象は全て分子生物学で説明がつくと考えられていた時代がありました。しかし、生物をパーツごとに分けて細かく分析していく手法では、かえって生命のダイナミズムは見失われるのではないかと、学生時代の私は感じていました。ラジオを分解するように生命現象を理解しようとする学問が分子生物学であるのに対して、組み立てながら生命の理解にアプローチしていくのが再生医療の醍醐味です。これからも難病の克服、人々の健康の向上を目指しながら、生命の神秘に迫っていききたいと思えます。

質の高い細胞シートの培養を目指す



近藤 誠さん

こんどう・まこと 早稲田大大学院先進理工学研究科生命理工学専攻博士後期課程2年、東京女子医科大先端生命医科学研究所所属(*)。日本学術振興会特別研究員 DC1。愛知県私立・東海中学・高校卒業

Q なぜこの分野に進んだのですか

A 学部時代は早稲田大教育学部理学学科生物学専修で学びました。生物学を選んだのは、物理や化学よりも新しい学問で、これから伸びていくかもしれないという期待があったからです。

ただ、学科での勉強にはあまり興味を持てず、早く就職を決めたいと、大学3年生の時に誰よりも早く就職活動を始めました。しかし、活動をするうちに、利益を追求しなけ

ればならない企業では、そこで行う研究にも限界があるのではないかと感じるようになりました。就職活動を始めて「働くとは何か」に真剣に向き合った時、企業の活動は社会を動かすという性格が強いのに対して、私は社会を大きくしたり広げたりすることに興味があることに気が付き、大学院に進学することに決めました。

少し回り道となりましたが、就職活動の経験は私にとって大きな財産になりました。働くことを考えるきっかけとなりましたし、就職という道を捨てて大学院に進んだ以上、中途半端なことは出来ないという決意が固まったからです。その思いが現在まで、研究活動を支えるモチベーションになっていきます。

Q 現在の研究内容を教えてください

A 私は細胞シートの「洗練化」を研究しています。通常、細胞シートは完成まで16日間の培養を必要としますが、そのスピードが上げれば手術までの期間を短縮でき、患者の負担は軽くなります。培養液を構成する成分などをいろいろ変え

ながら、質の高い細胞シートを短期間で培養する方法を探っています。

研究のやりがいは、何と云っても、病気が治って喜ぶ患者の顔を見ることがです。手術には私も立ち会い、手術中は手術室の隣で移植寸前の状態まで培養した細胞シートを用意して待機し、医師の指示を受けてシートを渡します。これまで、私が作った細胞シートが実際の移植手術に使われたのは10例ありますが、初めての手術が成功した時は本当に感動しました。

その一方で、再生医療のような学際的な研究分野で難しいのは、医師を始めとする異分野の専門家とのコミュニケーションです。移植手術は医師、培養は私たちという分業の枠

組みが出来ていますが、私たちも医師に専門的な見地からアドバイスできなければ信頼は得られず、分業もうまくいきません。必要とされる研究者になるために、専門性をしっかりと磨いていきたいと思っています。

Q 高校生へのメッセージをお願いします

A 部活動でも趣味でも、興味のあることに精一杯取り組むことが大切だと思います。高校生で何かをやり遂げるというのは難しいかもしれませんが、自分なりに努力して得た経験は、つらいこと、大変なことに出合った時、乗り越えるための原動力になるはずですよ。やりたいうことを我慢せず、後悔のない高校生活を送ってください。

私の高校時代

ドラマで学んだ努力する意味

●高校時代はバスバンド部でドラマを担当していました。未経験でしたが、友だちとロックバンドを組むことになり、その練習も兼ねてバスバンド部を選んだのです。当時はドラマのことばかり考えていました。毎日夜8時まで学校で個人練習に没頭し、帰宅後はベッドに入った後も頭の中でリズムを刻んでいました。独学でしたので、アクセントやニュアンスの出し方など、ドラマを叩きながら試したり、プロのビデオを見て研究したりしました。お陰で、自分なりに考えながら工夫し、出来るようになった経験は大きな自信につながりました。

大学時代は2つのバンドサークルを掛け持ちし、音楽の幅はもちろん、交友関係も広がりました。何ごとも一生懸命追求して力を付ければ、必ず周りから必要とされる。そして、そこで得た自信がさまざまな困難を乗り越える精神的な支えになると学びました。

*近藤さんは、早稲田大大学院から研究生として出向し、先端生命医科学研究所に所属しています

新課程先行実施での 中学校の変化と課題

高校の新課程は2013年度の全面実施に向け、12年度から数学と理科で先行実施される。

一方、中学校の新課程は09年度からこの2教科が先行実施され、

12年度から全面実施となる。

中学校の指導や生徒の実態はどう変わったのだろうか。

Benesse教育研究開発センターが行った

「中学校の学習指導に関する実態調査報告書2011」の結果と、

東京都中野区立第七中学校の宮下彰校長の見解を交えて紹介する。

新課程によって今まで以上に
教科指導の工夫が可能に

2012年度から中学校の授業
時数は、3学年とも年間35時間増
えて1015時間になる(図1)。
各校では6時間授業の日を増やし
たり、長期休業を減らしたりして
対応することになる。特に理数教
育については、教育内容が「とて
も充実する」「まあ充実する」と
捉える教師が9割に上る(図2)。
東京都中野区立第七中学校の宮下
彰校長は担当教科である理科につ
いて次のように期待を寄せる。

「新課程では学習内容が増えた
だけでなく、生徒の意欲を喚起す
る内容となるよう工夫されていま
す。基礎基本の定着のために振り
返り学習も重視されているため、
学力向上、そして学力差の解消に
もつながらずではないかと期待し
ています」

宮下校長は、期待を実現させる
上での懸念として、学習内容増加
に応じた教科指導上の課題と、授
業時数増による全人教育への影響
の2点を挙げている。

図1 中学校における新課程での授業時数の増加

	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	道徳	特別 活動	選択教科	総合的な 学習の時間	合計
1年	140(4)	105(3)	140(4)	105(3)	140(4)	45(1.3)	45(1.3)	105(3)	70(2)	35(1)	35(1)	-	50(1.4)	1015(29)
	0	0	+35	0	+35	0	0	+15	0	0	0	0~-30	-20~-50	+35
2年	140(4)	105(3)	105(3)	140(4)	140(4)	35(1)	35(1)	105(3)	70(2)	35(1)	35(1)	-	70(2)	1015(29)
	+35	0	0	+35	+35	0	0	+15	0	0	0	-50~-85	0~-35	+35
3年	105(3)	140(4)	140(4)	140(4)	140(4)	35(1)	35(1)	105(3)	35(1)	35(1)	35(1)	-	70(2)	1015(29)
	0	+55	+35	+60	+35	0	0	+15	0	0	0	-105~-165	0~-60	+35
計	385	350	385	385	420	115	115	315	175	105	105	-	190	3045
	+35	+55	+70	+95	+105	0	0	+45	0	0	0	-155~-280	-20~-145	+105

注1) 上段数字は時間数、上段()内は週当たりのコマ数、下段数字は今回の学習指導要領の改訂での増減時間数

中学校の課題① 教科指導上の課題

新課程を読み込み
指導に強弱を付ける

まず、教科指導の課題について見ていこう。例えば、理科では学習内容の増加を反映し、新しい教科書の平均ページ数が従来の教科書の1.5倍近くに増える。

「授業時数が増えたとはいえ、どの単元も満遍なく教えていると時数が不足し、教え切れない内容が出かねません。教師が教科書を先に進めることばかりを意識することも懸念されます。そうなること、教える量は確保できたとしても、生徒の関心を引き付けることは出来ません。結果として、生徒は中学校の学習内容を身に付けられないまま高校に進学することになります」(宮下校長)

そうした事態を防ぐには、新課



東京都中野区立第七中学校
校長 宮下彰 みやした あきら
教職歴38年。同校に赴任して1年目。専門教科は理科。2009年から11年まで全国中学校理科教育研究会会長。

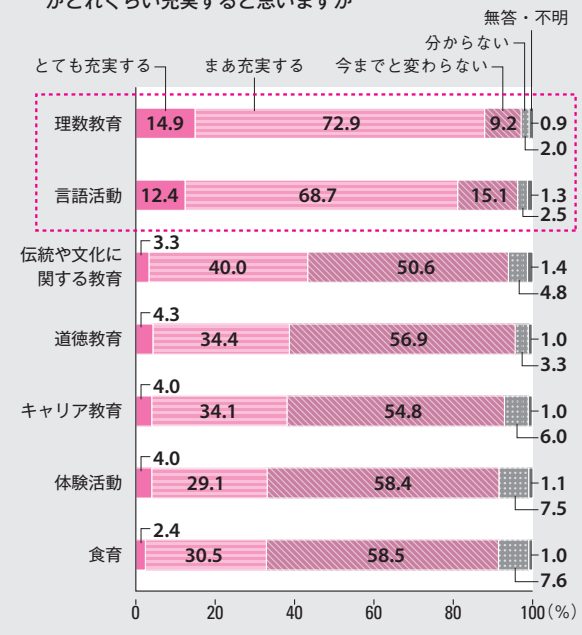
程の内容理解が不可欠だ。新課程の示す学習内容には、「…を認識させる」「…に触れる」など表現に違いがある。これを教科指導の目安にすべきと宮下校長は話す。

「新課程の表現に基づき、実験や観察を通して生徒に深く考察させるところ、口頭での説明で済ませるところなど、内容によって強弱を付けた指導が求められます。教師が新課程を読み込み、指導内容を精査する必要があるのです。そうすれば、教科書の量に引きずられず、増加した学習内容を限られた時数の中でしっかり教えられようと考えています」

逆に、教師が重要と判断した事項は、新課程での表現にとらわれず指導の充実が求められるという。「例えば、放射線の分野については『触れる』と表現されています。しかし、現在の日本で暮らす上では、放射線について社会に流布する情報に惑わされないだけの正確な知識を教えた方がよいと考えます。この学びを基に、将来、生徒が自ら判断できる力を培ってほしいと思います」(宮下校長)

図2 新課程実施による教育活動の充実度

Q. 新学習指導要領の実施によって、次のような教育内容や活動がどれくらい充実すると思いますか



注1) 「とても充実する」+「まあ充実する」の合計の上位7項目を抜粋し掲載
注2) 調査対象は、全国(東北6県と茨城県を除く)の中学校(国立・公立・私立)の主幹教諭・教務主任(配布数9,254人、有効回答数2,839人、有効回答率30.7%)

出典/ Benesse教育研究開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書2011」(2011年6~7月)

教師が新課程について共通理解を持つためには、国や自治体、各研究会が研修の場を設けることが重要とも、宮下校長は話す。

「ベテラン教師の中には以前の課程で教えていた内容が戻ってくるだけという意識の者もいます。新たな内容もあるので学び直す必要があります。また、若手教師にとっては指導分野が増えて戸惑いがあるはず。しかも、地域によっては学校が小規模化し、教科担当が1人しかないことも珍しくありません。そのため、校

内で教科指導を学べる環境にない教師もいますから、複数の学校が集まって研修をする必要があると思います。私のかかわる全国中学校理科教育研究会では、全国の先生方のための研修会を開き、多くの中学校で孤独と多忙化の中で頑張っている先生を少しでも支援したいと考えます。新課程移行期だからこそ、授業力の向上が必要で、指導のばらつきを解消することで、生徒の理解度の差を是正していくことも出来るでしょう」

学習内容の増加に対して、半数

*プロフィールは2012年3月時点のものです

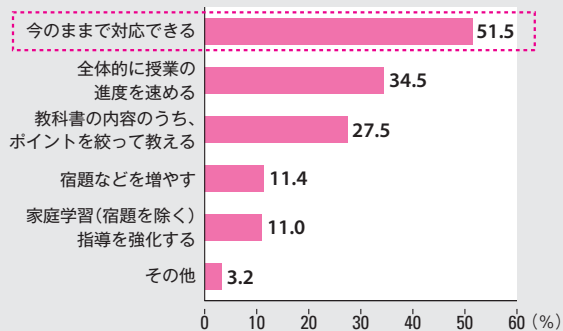
以上の教師は「今のままで対応できる」と捉えている（図3）が、教科指導に新たな工夫が求められることになりそうだ。更に、新課程で重視すべきとされたポイントも、どう授業に取り入れるのかも重要な視点だと、宮下校長は話す。

「今回の改訂では、年間を通じた継続的な観察が重視されています。これは、理科の本質的な面白さを生徒に伝える好機です。実験や観察は手間が掛かりますが、しっかりと活用できるように手立てを講じる価値はあると思います」ところが、半数以上の教師は「実験・観察時数の確保」について不安を感じている（図4）。

「根本的な解決には、教師の加配など、行政による支援が必要だと思えます。学校に出来ることは、地域や外部人材の力を借り、少ない準備時間で効果的な学びを生む工夫です。本

図3 新課程における学習内容増加への対応

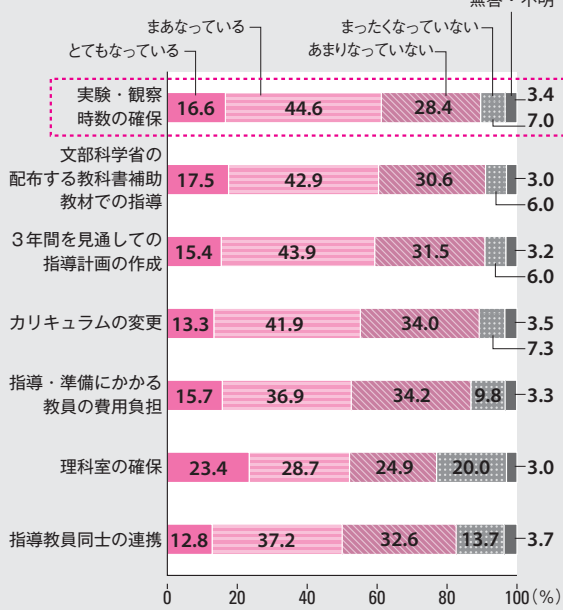
Q. 新学習指導要領における学習内容の増加に、どのように対応する予定ですか



注1) 複数回答
注2) 質問対象は、全国(東北6県と茨城県を除く)の中学校(国立・公立・私立)の中1・中2・中3の理科担当教員(配布数27,772人、有効回答数7,042人、有効回答率25.4%)
出典/Benesse教育研究開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書2011」(2011年6～7月)

図4 理科の先行実施における課題

Q. 理科の先行実施に取り組む中で、次のようなことは課題になっていますか



注1) 「とてもなっている」+「まあなっている」の合計の上位7項目を抜粋して掲載
注2) 調査対象は、全国(東北6県と茨城県を除く)の中学校(国立・公立・私立)の中1・中2・中3の理科担当教員(配布数27,772人、有効回答数7,042人、有効回答率25.4%)
出典/Benesse教育研究開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書2011」(2011年6～7月)

言語活動を取り入れた授業で生徒の学習意欲を高める

言語活動は新課程で重視されている活動であり、図2にあるように、約8割の教師が新課程の実施後に充実すると捉えている。宮下

校長は、日本科学技術振興財団や大学などから研究者や教授を講師として招き、実験や講話などをしてもらいました。専門的な内容を分かりやすく伝えられ、生徒の関心を引き出せたと思います」(宮下校長)

校長は、充実した言語活動を取り入れるためには活動の狙いを固めるべきだと話す。「授業にディベートを取り入れる中学校はたくさんあります。しかし、スムーズに取り組むことに注力するばかりに、言語活動の本来的目的を見失っていることも見受けられました。生徒にどのような力を付けさせたいかを学年や教科の先生方と共にじっくり話し合

い、目的意識を共有する必要があるのでしよう。本校では、言語活動を11年度の校内研究のテーマと

し、新課程の全面実施を前に、改めて教師全員にその意義を見つめ直してもらいました」

言語活動を取り入れることで、授業の中で効果的な学びが得られるだろうと、宮下校長は話す。「例えば、実験で1つのグループが違う結論を出したとします。私ならば、教師が答えを言わず、なぜ違う答えなのかを生徒に考えさせます。友だち同士の意見交換は、教師から解説を聞くのとは違う新鮮さがあるはず。これまでも重視されてきた発信力や表現

力に加えて、今後は、他人の意見を聞いて自分の意見を修正する力が求められると感じています。そうした力の育成を教科横断で行うことが、効果的な学びにつながるでしょう」

中学校の課題② 全人教育への影響

授業以外に生徒の頑張りを認める機会をつくる

2つめの課題は、授業以外に教師が生徒とかかわる時間をいかに確保するかだ。授業時数が増えたため、逆に授業外の時間が減ってしまい、12年度から部活動や生徒会、特別活動、行事などが精選される可能性が出ているからだ。

教師にとっては、今まで以上に教材研究などの負担が増すと考えられる。12年度以降、教師の多忙化が加速することを不安に感じる教師は、9割近くを占めている(図5)。何も手立てを講じなければ、教師と生徒のかかわりは減ると予測される。

「中学校は教科学習だけでなく、生徒の全人教育の場でもあり

ます。友だちと触れ合い、目標に向かって一緒に努力する時間も十分に確保しなければなりません。学習以外のことで教師や友だちから頑張りを認められる経験が不足してしまうと、勉強が苦手な生徒は学校で自己肯定感を得る機会が減ってしまいます。これにより、何事にも意欲を見出せない、無気力な生徒が増えないかと危惧しています」(宮下校長)

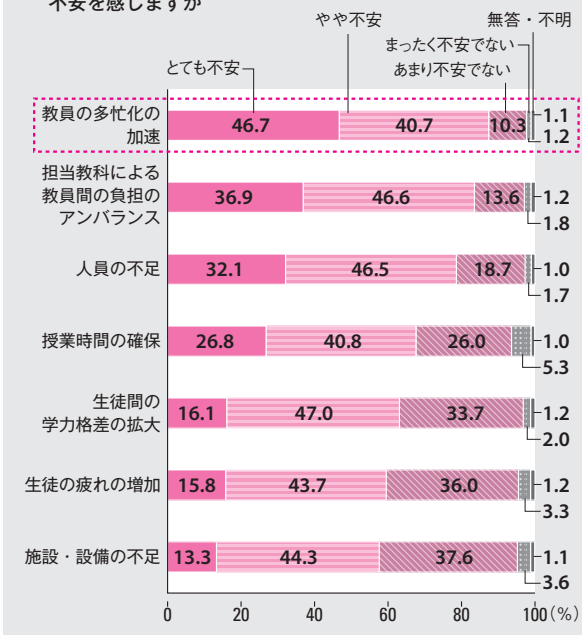
こうした事態を防ぐために、中学校には、教師の負担が大きくなり過ぎないように配慮しながら、教師が生徒と触れ合う時間を授業以外に設ける工夫をする必要があると、宮下校長は考えている。

一方、「総合的な学習の時間」の授業時数は少なくなる。この時間を進路学習に充てていた学校では、進路学習の時間をどう確保するかも課題となる。

「進路学習の時間が減れば、これまで以上に進路意識が希薄な生徒を高校へ送ることになりかねません。本校では、高校から先生を招いて講話してもらったり、生徒を高校の授業見学などに参加さ

図5 新課程全面実施における不安

Q. 新学習指導要領の全面実施にあたり、次のことにどれくらい不安を感じますか



注1) 「とても不安」+「やや不安」の合計の上位7項目を抜粋して掲載
 注2) 調査対象は、全国(東北6県と茨城県を除く)の中学校(国立・公立・私立)の主幹教諭・教務主任(配布数: 9,254人、有効回答数: 2,839人、有効回答率: 30.7%)

出典/ Benesse教育開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書2011」(2011年6~7月)

下校長は話す。

せたりして、高校との連携の強化を図っています。高校の先生から説明を聞くことで、生徒は高校への関心を高めます。例えば、『SHで専門的な理科の授業が受けられる』『学校で友だちと学習できる自習室を確保している』といった話に、生徒は心を動かされます。中学生も中学校教師も、高校のことをもっと知り、中高の学びが接続するように工夫していきたいと考えています」(宮下校長)

また、高校にも中学校のことを知る機会を得てもらいたいと、宮

「高校の先生方に、多様な生徒がいる中学校の様子を肌で感じてほしいと思います。中学校では、さまざまな生徒について小学校と情報交換をする連絡会などを設け、教師と生徒のかかわりが円滑になるよう工夫をしています。同様に、中学校には高校の教育活動を考えて上でのヒントがあるので、ぜひつながり合うことで、生徒の学力も人格もしっかり伸ばしていきたいと考えています」

学生が伸びる学び方

大学選択

新たな視点



今号の視点

専門性と社会を関連させた

体験型学習を行う学部〈東日本編〉

当コーナーでは、2010年9月号、11年4、10月号で、体験型学習をカリキュラムの中心に据え、学生の意欲の向上を図る大学・学部を紹介してきた。こうした取り組みは、理工系、経済・経営系以外の学問分野にも広がりを見せている。4、6月号連続で紹介する。

体験を通して「キャリア」を 学び、視野を広げる

法政大
キャリアデザイン学部

◎課題意識と狙い

法政大キャリアデザイン学部は、2003年度に開設された。聞き慣れない学部名だが、教育学、経営学、人文社会学などの複数の領域を扱い、「幅広い学びの中から興味のあることを見付けられる」と学生に好評だ。

荒川裕子教授は、「キャリアデザイン」といっても職業だけを考える

学部ではありません。『ワークキャリア』と『ライフキャリア』の両方を考える、つまり生き方全体を考える学部です」と語る。

同学部では、学ぶことや働くこと、生活などを考える際に、机上の学問だけではなく、学生自身が出で「学ぶ体験」や「働く体験」を重ねることが重要と考え、体験型学習をカリキュラムの中心に据えている。更に、自分のキャリア形成だけではなく、他者のキャリア形成を支援できるスキルを身に付けることも、学習目的の1つとしている。

◎取り組み内容

体験型学習の中心となる科目は、夏期休業中に企業やNPOなどで仕事を体験する「キャリア体験学習」と、学校や地域で他者の学びを支援する「キャリアサポート実習」だ。組織の一員としての立場と、リーダーとしての立場の両方を体験することが出来る。2年次からの選択必修科目（*）だ。

「キャリア体験学習」には、企業と連携して新商品を開発するコースや、自分で実習先を探すコースなど6クラスがある。「キャリア体験学習」を担当する小門裕幸教授

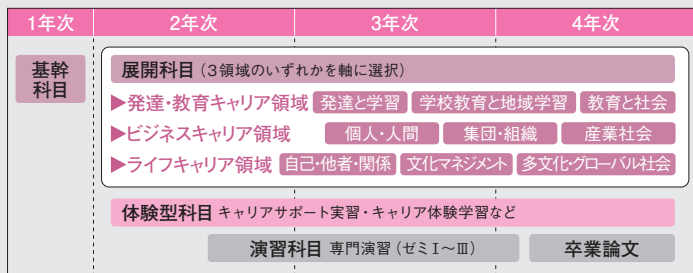
は次のように話す。

「キャリア体験学習は、1クラス25人程で行います。2年次前期に事前指導を行い、後期に働くということについて考察を深めます。学生は、実習先の企業や自治体の方に叱られて落ち込むこともありますが、失敗もします。そうした中で、どうすれば相手の役に立つのか、自分で考えるように指導しています」

この2科目を軸として、1年次の基礎ゼミ、2年次の体験型学習、2年次後期から4年次まで続くゼミ、卒業論文と、4年間にわたつ

*カリキュラム変更のため、2011年度までは1年次で履修、12年度から2年次での履修となる

図1 法政大キャリアデザイン学部 カリキュラム体系



2年次以降、講義型の専門科目で体系的な学びを積み上げると同時に、学外での実習を重視した体験科目を通じて、社会を経験させ、スキル養成も行う

*学校資料を基に編集部で作成

て体系的に学びを深められるようにカリキュラムが組まれている(図1)。2年次後期はゼミと体験型学習が同時進行となり、学生にとってハードなカリキュラムである。「課題を出し、学生が主体的に行動せざるを得ない環境にしています。社会のどこかにコミットして自分の役割を果たすにはどうすればよいか、気付かせるのです。そのためには外の世界を体験することが重要

です」(荒川教授)

他に、特別プログラム「キャリア体験学習(国際)」では、中国やベトナムを訪れ、日系企業の現場を体験し、現地大学生と交流する。また、小門教授が担当する「事業創造論」では、1クラス20〜30人の学生がチームに分かれてビジネスプランを作成し、学内のビジネスコンテストに応募する。コンテストで優勝するチームが過去にいくつもあるほど、鍛え上げられるという。

こうした体験型学習の効果をより高めるためのサポート役として、キャリアアドバイザーの存在がある。キャリアアドバイザーは教員と学生をつなぐ立場と位置付けられており、6人が在籍。学生の学習支援や進路選択のサポートの他、学生一人ひとりと面談を行い、丁寧にアドバイスする。キャリアに関する資料をそろえた「キャリア情報ルーム」には、体験型学習などを進めるに当たって自由に使えるスペースがあり、学生の学びを助けている。

◎成果と課題

小門教授は、「体験型学習というきっかけを与え、視野を広げること

で、学生が精神的に強くなっていると感じています。まだ自立できていない学生には、巣立ちのプロセスが必要です。外の世界を体験させ、自分で責任を取れる、自立した人間の育成を目指しています」と語る。

2年生の藤原優紀[®]さんは、「私は元々積極的な性格ではなく、実習に参加するのは少し嫌だと思っていました。でも、頑張って参加してみました。将来の職業を考えるきっかけがつかむことが出来ました。自分を追い込むことで、苦手なことにも挑戦できたと思います」と語る。

今後、カリキュラムのさまざまな場面で、学びを通じた学生への動機付けを行っていくという。同学部のキャリアアドバイザーである服部典子氏は次のように語る。

「就職活動の前になると、『自分には専門性がない』と不安になって相談に来る学生がいます。そこで考えてほしいのは、就職活動のためではなく、学びのための自己分析です。私たちは、『人のエキスパート』『人と接することのプロ』を育てています。他人に貢献でき、更に自分もマネジメントできる人になってほしい

い。そのためにどうしたらよいか、自分で考え、行動するようアドバイスしています」

社会との接続を意識した体験型の「スタジオ式教育」

横浜国立大
教育人間科学部人間文化課程

◎課題意識と狙い

横浜国立大教育人間科学部人間文化課程は、11年4月、それまでのマクルメディア文化課程と国際共生社会課程を統合・再編して新たに誕生した。再編前は、ゼミが専門教育の中心であり、教員の下で文献を読み、論文を書くというスタイルの教育も多かったが、再編後は、体験型学習である「スタジオ式教育」を強く打ち出し、学生に学問と社会との接続を意識させ、学問研究だけでなく、課題解決能力、企画立案や運営なども出来る人材の輩出を目指す。スタジオ式教育は、教員と学生が協働して課題を設定し、横浜市や川崎市など学外に出て、さまざまな職業の人や子どもたちに対する取材やワークショップなどを重ねながら、プロダクトやイベントといった形で

*プロフィールは2012年3月時点のものです

社会への発信を図るといふものだ。11年度は12のスタジオが開講された(図2)。映像や音楽の作品作り、ドキュメンタリーの制作、フィールドワーク、国内外での研修など、現場に実際に出て、学外の人々とも交流する。

「未来構想スタジオ」を担当する大須賀史和准教授は、「再編前にも、ワークショップ型、プロジェクト型の科目を用意し、体験型学習を行っていました。一部の学生しか履修していませんでした。元々、学習効果は高いと考えていた体験型学習を、『スタジオ式教育』として体系化し、必修科目とすることで、全ての学生に、より質の高い教育を提供しようと考えました」と語る。

◎取り組み内容

スタジオ式教育は、「スタジオI(入門)」から「スタジオV(創造的実践)」の5科目から成り、1年次後期から3年次後期まで半期単位で進む。元々、同課程には1年次前期に必修科目である「基礎演習」があるが、後期にそれにつながるプログラムがなく、2年次から始まる専門教育への接続が上手く出来ないとい

う課題があった。

「鉄は熱いうちに打て、ということとです。1年次後期が半年間の空白期間で、学生のモチベーションが下がり、学習への意欲を失いがちでした。そこで、1年次後期から始まるスタジオ式教育で、体験型学習を基に専門性を付けようと考えました」(大須賀准教授)

1つのスタジオに付き2〜3人の教員が指導する形態のものも多い。その場合は、複数の教員が同時に教えたり、週によって交代したりするなど、スタジオの特色に沿って工夫しながら授業は進められる。大須賀准教授が担当する「未来構想スタジオ」では、哲学や思想を学ぶが、抽象的な議論に陥らないようにメインドマップを使ったブレインストーミングをしたり、市役所に勤務する卒業生の講演を聞いたりするなど、体験型学習を重視している。

于臣准教授は東アジアの歴史と現在を学ぶ「イースト・アジアン・スタディ・スタジオ」を指導している。「スタジオに所属する学生は、上海の華東師範大に行き、1週間の研修(日本を伝えるプレゼンテーショ

ンなど)をし、現地の学生と交流もします。経済成長のみならず、格差も見られる、等身大の中国を見せつつ、歴史や思想を理解するきっかけをつくりたいと考えています」

スタジオは学期ごとに変えてもよく、最大で5つのスタジオに所属が可能だ。ただし、自分の関心に合わせて1つのスタジオを選んでほしいと、大須賀准教授は語る。スタジオ式教育では、専門分野の学びを深めることはもちろん、先輩・後輩の交流が生まれることも意図しているからだ。1年次〜3年次の実践中心のスタジオと、3年次からの専門を深めるためのゼミは、同じ教員のものも継続して履修し、理論と実践で専門を深めてもらうのが理想だという。

◎成果と課題

スタジオ式教育では、1つのスタジオに複数の教員が関与するため、教員同士が刺激を受け合い、学生も先輩・後輩間で刺激を受け合う。ゼミは学年ごとの活動が主体であるのに比べ、スタジオ式教育では「タテ、ヨコ、ナナメ」の幅広い人間関係が生まれ、多様な学びの機会が得られるという効果も期待できる。

図2 横浜国立大教育人間科学部人間文化課程「スタジオ式教育」

2011年度の開講スタジオ

- ・アーバンアート・スタジオ
- ・音楽・音響スタジオ
- ・映画・映像スタジオ
- ・編集・批評スタジオ
- ・イースト・アジアン・スタディ・スタジオ
- ・現代史ドキュメント・スタジオ
- ・未来構想スタジオ
- ・国際都市・横浜発見スタジオ
- ・ツーリズム・スタジオ
- ・知識社会学スタジオ
- ・都市生活デザイン・スタジオ
- ・国際社会学スタジオ

2011年度は12のスタジオが開講した。各スタジオの定員は1学年当たり10〜15人。2012年度以降は学年横断での活動も予定している

「イースト・アジアン・スタディ・スタジオ」に所属する1年生の今中愛海さんは、「中国語に興味があり、このスタジオを選びました。中国や韓国の映画などを見て、映画が製作された背景をグループごとに調べてプレゼンテーションや議論をするなど、聴くだけの講義とは違った面白さがあります。授業時間外にも友達ちと集まり、発表の準備をしています。忙しく大変ですが、やりがいを感じています」と語る。

課題として、スタジオ設備の充実

行政について学び、故郷の復興に生かしたい



法政大
キャリアデザイン学部2年
伏見啓直
(福島県立原町高校卒業)

大学に入り将来を模索している最中に、東日本大震災で故郷・福島は大きな被害を受けました。故郷は、原発事故終息後に戻りたい高齢者と集団移転したい若い世代との間で揺れています。地域行政のあり方がより重要になっている——そう感じていた頃、私は学部の「体験学習」で長野県飯田市で行われたフィールドスタディーに参加しました。

飯田市は地域おこしが活発で、私たちは地域の祭りに参加し、住民にインタビューなどをして政策提言をまとめました。具体的には、観光客への農業体験の提供やセカンドキャリアとしてゆったり暮らせるような地域づくりなどです。飯田市は、住民の声を市政に生かすため、公民館をたくさん作り、若い市職員が勤務し、住民自治を市政の意思決定に生かしていることを知りました。

「体験学習」で学んだ経験から、もっと政治学をアカデミックに勉強し、実践していきたいという気持ちが強くなっています。

1年間の中国留学で広い世界を体験したい



横浜国立大教育人間科学部
人間文化課程1年
塚田仁妃奈
(熊本県立熊本高校卒業)

いずれは海外留学したいと思い、国際的な学びが出来るような本学を選びました。留学生が多く、協定校も多いため、留学中の単位が認定されることも魅力でした。こうした関心もあって、経済史や思想史、比較文化などを学ぶ「イースト・アジアン・スタディー・スタジオ」を選びました。

授業では、日中間の古紙のリサイクルや、日本の金型職人が中国に人材流出するなどの、アジア各国のドキュメンタリー番組などを見て、6人のグループで、その背景を調べ、発表しました。こうした授業は、座学中心の講義に比べて忙しいですが、充実しています。また、完成度の高い発表を聴く度に刺激を受けています。高校までは自分から調べて発表するような機会はほとんど無かったからです。自分でテーマを掘り下げるだけでなく、自分で発信する力の必要性も感じました。

12年9月から上海交通大に1年間留学する予定です。日本人の中国に対するイメージを変えるような、更に深い学びを中国で体験したいと思っています。

が挙げられる。各スタジオは共用のパソコンルームや資料室などを徐々に整えている段階であり、学生が自主的に活動できる部屋の確保はまだ準備中だ。カリキュラム編成と同時に、活動できる場がどのように整備されていくかが注目される。

進路指導に生かす

専門分野と社会との関係を関連させているか

2つの事例で共通しているのは、2年次から体系的に専門分野と社会との関係性を意識させるカリキュラムを組むことで、より深い学びへとつなげようという意図である。また、体験型学習を経験する過程で、社会体験や調査、アウトプットのためのスキルを養成する狙いもある。今回紹介したように、プログラムが単年度ではなく、4年間で体系的に組み立てられている点や、体験型学習が社会との接点だけでなく、専門分野を深めることにもつながっている点などにも着目したい。座学だけでは得られない学びの有無が、これからの大学選びのキーワードだろう。

取材・編集協力：山内太地

事例以外に体験型学習を行う大学・学部を紹介

体験型学習を行う大学 東日本編

●首都大東京
グローバル・シチズンシップ・プログラム(GCPP)
学部1・2年生を対象に、英語による授業を行う科目、国際活動力強化科目、プロジェクトワークなど幅広い学びを通じて、世界で活動できる人材の育成を目的としたプログラムがある。

●創価大経済学部
社会貢献と経済学
80人規模の授業でアクティブラーニングを実施、1つのテーマを基に学生同士での議論や、社会人になった先輩や企業人に来てもらって話をするなどし、経済学の社会での有用性を具体的な事例を通して学ぶ。

●東京電機大情報環境学部
プロジェクト科目
「プロジェクト科目」を特色ある教育として打ち出している。教員、企業・官公庁から募集されたテーマに学生が取り組む。学生自身がテーマを出すことも可能。

●日本大生産工学部
生産実習
大学で学んでいる知識が社会でどのように利用されているかを、企業や公的機関などにおける実習体験から学び取り、総合的知見に富んだ技術者を育てることを目標にしている科目。

*プロフィールは2012年3月時点のものです

タイムリーな情報提供

2月号の特集「2012年度入学生生の指導に迫る」は、新課程に向けてカリキュラムやシラバス作成が一段落し、「さてどのように指導しようか」と考えていたところに、ぴったりの内容であった。本校の生徒も背伸びをしなくなっていると感じている。ワンランクアップを避ける傾向にあり、それが進学校でも見られることに驚いた。「やれば出来る努力を、なぜしないのか」が分からず、指導に停滞を感じている。また、私は数学教師であるため、「1年生の指導ポイント・数学」を熟読した。空間図形の教具購入なども考えているが、生徒が喜ぶのは教師の手作りであり、アナログだったりする。この点も工夫したい。

〔宮城県・私立常盤木学園高校・高谷将宏〕

新課程の実施は目線合わせのチャンス

2月号の特集「2012年度入学生生の指導に迫る」にあった「ほどほど志向」というキーワードは、確かに今の生徒に当てはまると思った。社会が豊かになり、右肩上がりの成長が望めないという認識が広まり、少子化も重なれば、「ほどほど志向」は加速するかもしれない。そして、この志向は間違いとも言い切れない。「上を目指すこと」と「能力を精一杯伸ばすこと」は違うと思う。多様な価値観を認めることは必要であり、1つの価値観だけで指導するのではなく、教師にも多様な考え方があってよいのではないか。ただし、ばらばらで連携しなければ学校運営は進まない。多様な考え方は認めつつ、最低限これだけは守る、指導するという目線合わせは必要だ。新課程の実施はその好機だ。〔岡山県立立高城高校・杉山義則〕

VIEW'S SQUARE

Volume 1

読者のページ

教育最前線からのホットな話題を紹介します

生徒の変化に応じた柔軟な授業を考える機会に

2月号の特集での「中学校でのグループ学習・発表中心の学習から、高校の講義中心の学習への変化に対応できない生徒が増えている」という指摘に同感である。高校の講義中心の授業形態に一工夫が必要であり、教師の意識改革・授業改革はますます重要になるだろう。しかし、自分の授業スタイルを変えられない教師は多く、「成績が悪いのは生徒のせい」「生徒の意識が低い」と生徒の責任にしがちである。中学校の授業を見る機会をもっと増やし、授業改善を続ける必要があると感じた。〔和歌山県・匿名希望〕

生徒の可能性を広げる指導に共感

2月号「指導変革の軌跡」の鹿児島県立串良商業高校の取り組みに強く共感した。大学進学率が高い今、専門高校のあり方も変化している。私が以前勤務していた商業科のある学校では、時代の流れから進学指導にも積極的に取り組んでいた。しかし、商業、工業、農業など専門の学習をながしるにはいけない。生徒は専門科目を学びたいと思えば入学し、普通科との違いを求めているはずだからだ。資格や技術をしっかり身に付けさせた上で、進学を見据えることが大切だと思う。そのような意味で串良商業高校の取り組みに心打たれた。

〔秋田県立能代高校・柏合浩樹〕

教師川柳

夢多きわれよりさらに夢多く

長野県・一徹

ご両親を亡くされた孤児のかた対象

ベネッセ 通信教育奨学制度のご案内

ベネッセコーポレーションでは、震災や事故などによりご両親を亡くされた日本全国のお子さまに、無償で教材をお届けする「ベネッセ 通信教育奨学制度」を2011年に新設いたしました。お子さまの高校卒業までの家庭学習を、〈ベネッセの通信教育サービス〉が全面的に支援してまいります。

貴校や周囲に孤児のかたがいらっしゃいましたら、本制度をお知らせいただけますと幸いです。

- 詳しいご案内は下記サイトをご確認ください
<http://www.benesse.co.jp/mirai/shogaku/>
- お問い合わせは講座の電話窓口までお願いします
進研ゼミ高校講座 0120-332-211 (通話料無料)
*一部のIP電話からは042-679-8567へおかけください (通話料がかかります)
*受付時間 10:00～21:00 (日曜・祝日・年末年始を除く)

編集後記

これまで、先生方に生徒とのたくさんのエピソードをうかがって参りました。取材中に感動し、涙を流しそうなことも一度や二度ではありません。その感動を読者の先生方にありのままに届けようと奮闘し続けるのが、編集部私の仕事でした。自身を振り返り、心が動く瞬間があるからこそ人は学び続けられるのだと感じます。これからも先生方と感動を共にし、生徒と先生の学び続ける姿を応援して参りたいと思います。(佐藤)

VIEW21 4月号 Vol.1

2012年4月2日発行

発行人 新井健一
編集人 原茂
発行所 (株)ベネッセコーポレーション Benesse教育研究開発センター
印刷製本 (株)ビーヴィコーポレーション
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 中丸満
撮影協力 荒川潤、川上一生、谷口哲、南弘幸、ヤマグチイッキ
イラスト協力 山本重也
VIEW21編集部 ※2012年3月26日に移転しました
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
電話 042-311-3391

©Benesse Corporation 2012

VIEW21 2012 June 6月 Volume 2

次号は
6月4日発行(予定)
「VIEW21」高校版は
年6回の発行です